

会 員 だ よ り



近 況 短 信					
第2期	機 械	森 岡	和 美		

悠久同窓会会員の皆さまお元気ですか。
 新型コロナウイルス禍も落ち着いてきましたが、今年はインフルエンザの流行が例年より早く懸念されます。
 世界はトランプ禍に翻弄され、ロシアとウクライナの戦争は終息の気配が見えません。国内では、女性初の高市首相が誕生し、その政治手腕が期待されます。しかし公明党との連立政権が破局し、維新との連立にこぎつけたものの厳しい政局運営であることは変わりません。
 2026年は午年です。午年は、エネルギーで前進する力に満ちた年とされ、物事をスピーディーに進める力を象徴します。会員皆様がそれぞれの立場で、意欲的に新しいことに挑戦する年にしたいものです。
 私は脳梗塞の後遺症で相変わらず、週に三日リハビリ通院しています。脳トレも兼ねて、地元新聞の読者投稿欄に応募しています。今年も、例年同様、最近の投稿作品から抜粋し、近況報告とします。
 悠久同窓会会員皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、悠久同窓会の益々のご発展をお祈りします。
 (令和7年11月2日記)

【通信Ⅰ】令和6年11月28日 記 新米上司と呼ばれぬように

農産物で唯一、余剰があると思われていた国産米が、令和のコメ騒動で不足するという事態に愕然としたが、秋に収穫された新米が流通し始め、価格は平年より高いものの落ち着きを取り戻しつつある。まさに、新米の面目躍如だ。
 同じ新米でも、新米社員や新米芸人といったことばで使われる新米は、仕事や芸事を始めて日数が経ってなく、仕事や技術が身につけていない様を言い、余り褒められた意味では使われない。
 同じ新米でもどうしてこうも違うのだろうか。後者の新米の成り立ちはこうだ。江戸時代の奉公人は前掛けを着けて仕事をしていたが、新しく入った者は前掛けが新しいことから、「新前掛け」が「新前」になった。これがなまって「新米」になったと言われている。また、新しく入ったものは「真っ白で初々しいこと」から、収穫したてのコメにたとえて「新米」と呼んだとも言われています。

新米社員や新米芸人が一人前になるには、本人の努力もさることながら、上司や先輩の指導・教育に負うところが大きい。逆に新米社員を迎え預かる立場からすると、新米社員から、「新米上司」と言われることの無いように切磋琢磨したいものだ。

【通信Ⅱ】令和7年1月4日 記 自らの殻を破り変革の年に

今年の干支は「巳」です。十二支の6番目で、成長過程の一つの節目を表します。変化や変容の意味も含まれ、自らの殻を破り、変化を遂げ、更に新しい段階へ進む準備が整った状態を示します。
 蛇が脱皮して成長するように、今年は昨年の出来事を契機として、脱皮して変革を遂げなければいけない事象が山積しています。
 まず1番に、昨年に「今年の漢字」で第1位となった金の問題です。派閥の裏金問題に起因し昨年10月に行われた総選挙の争点にもなった政治と金について企業献金、政治資金パーティーの収入の明確化、またその使途を明らかにするルールの確立などを早急に図らなければなりません。
 総選挙で自民・公明の与党が大敗し、議席が過半数割れとなった国会での審議。ここでは、従来の1党独裁体制から脱皮し、与野党が丁々発止の議論を戦わせる姿が望まれます。常に国民目線での政策論議をする国会に生まれ変わる必要があります。

昨年のノーベル平和賞は、広島、長崎の被爆者の全国組織、日本原水爆被害者団体協議会が受賞しました。受賞したから終わりではなく、「核兵器も戦争も無い世界の人間社会を求めて共に頑張る」新たなスタートの年としなければなりません。
 今年は変革を図る年としたいものです。

【通信Ⅲ】令和7年3月13日 記 食料自給率の向上 喫緊の課題

米の品不足、価格の高騰対策の為、政府はついに、備蓄米の放出を決めた。備蓄量91万トンのうち、第1弾として、15万トン程度を放出するようだ。2022年のお米の日本人一人当たりの年間消費量は50kgであり、今回の15万トンの放出量は一人当たりすると1.5kgで、年間消費量の3%である。これで流通がスムーズになり価格も下がると見込んでいるようだが、果たしてそうだろうか？この量が速やかに市場に出回る保障は無いし、またど

ここに買占めで備蓄される恐れもある、きちんと市場に回るように追跡調査をし、販売状況を報告させるようにしなければならない。

主要先進国の中で、日本は、食料自給率が極端に低いと言われて久しい。1位のオーストラリアは230%、以下仏130、カナダ120、米119、独91と続き、日本は、12位で40%である。穀物ベースでも世界の130位で28%だ。

瑞穂の国と言われ、お米は大丈夫と思っていたら大間違いであることが、今回実証された。インバウンドで需要が増えた、南海トラフ地震臨時情報でお米の買込めがあり、品不足になり、価格も高騰するとは、背筋が凍る思いだ。

お米不足の原因は長年にわたり、政府の進めてきた減反政策が関連している可能性は大である。1960年代前半には、自給率が70%を超えていたのに、今では、当時低かった英や独にすっかり逆転されている。政府は食料自給率の向上を図ることが喫緊の課題だ。輸入に頼っている食料確保は、有事になれば脆弱なものだ。

【通信Ⅳ】令和7年5月27日 記

米の安定供給へ議論尽くせ

米の品不足、価格の高騰対策で、政府は備蓄米の放出を決め31万トンを出した。2022年のお米の日本人一人当たりの年間消費量は約50kg。今回の放出で流通がスムーズになり価格も下がると見込んでいたようだが、流通に時間がかかっているのが原因か、そのような目に見えた効果は全く表れていない。

「米は買ったことがない。売るほどある」などとの不適切発言で江藤拓農水相が辞任。後任の小泉進次郎氏は、備蓄米を大胆に放出し、随意契約で店頭価格を引き下げるとの米対策を打ち出した。

放出価格を低く抑えれば、今回の備蓄米の店頭価格は小泉大臣の言う5キロが各2千円になることもあり得る。しかし備蓄米は無尽蔵にあるわけではなく90万トン程度といわれており、日本の年間消費量の670万トンの13%である。これでは他の銘柄米など全体の米価を引き上げるには限界があるだろう。

一方、価格引き下げだけが焦点になっていて、本質的な問題である米の不足原因、正当な米価の在り方などが各政党間であまり議論の対象になっていないように映る。主食であるコメの安定確保策、その前提となる農家の米生産が安定的に持続できる適正な米価の在り方を、今こそ真剣に探り国会で論議すべきだ。

安定供給こそが、価格安定の基本であり、政府は、国民の合意形成の方途を示すべきだ。

【通信Ⅴ】令和7年6月11日 記

小規模特認校 導入に期待

阿南市教育委員会は、子どもの数が減っている山間部の吉井小学校で、学区外からの通学希望者を受け入れる小規模特認校制度を、令和8年度より導入する。文科省指針の

「適正規模・適正配置」で学校を統廃合し数を減らすことだけを目的とした再編が主流のなかで、県下初の取組に舵を切った教育委員会の英断には敬意を表したい。学校教育は単なる知識の伝達にとどまらず、社会を支える人材を育てるために、如何に教育の質を保ち、魅力ある学校教育を実践して、校区外からの通学希望者を確保するかが肝要である。吉井小学校のHPでは、教育方針として「子どもがつくる 一人一人が伸びる みんなの学校」とある。激しい変化の時代を生きる子どもたちが主体的に考え、自ら進んで行動する自立した生き方ができる力を培うという強い信念を感じ取れる。

地域有志で本年2月に視察した四国中央市立新宮小中学校では、上級教育機関（愛媛大学等）との連携や、校区外からの通学用交通手段の確保などについて市や教育委員会の全面的なバックアップ（予算、人的関わり）がおこなわれていた。また保護者・地域との連携による体験活動学習が充実していた。加茂谷地区も地域資源（自然、遺跡や史跡、生物多様性スポットなど）を活かした体験活動学習が行われており下地はすでにあると思われる。

この先駆的な取り組みが実を結ぶかどうかは、市・教育委員会・学校・保護者・地域が一体となって本気で協働し、子どもたちにより良い教育環境を提供し、自ら学ぶと言う教育本来の姿を実現できるかにかかっている。今後の展開に大いに期待したい。

【通信Ⅵ】令和7年7月27日 記

小規模特認校 阿南市教委は本気度示せ

阿南市教育委員会は、子どもの数が減っている山間部の吉井小学校で、学区外からの通学希望者を受け入れる小規模特認校制度を、令和8年度より導入する。学校の統廃合で学校の数を減らすことだけを目的とした再編が主流のなかで、県下初の取組に舵を切った阿南市教育委員会の英断には敬意を表したい。

学区外からの通学ということで、通学距離が遠くなることは自明の理であり、当然その対策も必要絶対条件である。国においても概ね小学校の通学距離は4km以内としており、通学条件を通学距離によって捉えることが一般的である。吉井小と市教委では、市内の幼稚園・保育所対象に小規模特認校の周知活動を始めているが、「自宅から遠いので、何か通学支援が欲しい」といった意見も多数出ているようだ。当然のことだ。しかし、現在のところ市教委は、「校区外からの通学は保護者負担でお願いしたい」としている。これでは、「仏作って魂入れず」といわれても仕方ない。

「100年の計は人を育てるにあり」といわれる。新しく提唱する教育環境に子どもを預けるかどうかは、最終的には、保護者の判断であるが、その阻害要因を取り除き、利用しやすい状況を作り出すことは理事者の責務である。市教委が小規模特認校導入に対する本気度をみせてくれることを切望する次第だ。

【通信VII】令和7年9月4日 記

コメ政策新組織 トップ疑問

令和の米騒動を受けて政府・自民党は、米の不足を回避しようと増産にかじを切る方針を打ち出す一方、米が過剰に供給され価格が下がり生産者が影響を受けることを懸念する声もあることにより、自民党農林部会などの合同会議は、新たに「農業構造転換推進委員会」を設け、米をめぐる政策を中心に論議していくことを決めました。

このことは、これまでの減反を中心とするコメ政策を、時流にあった適切な取り組みに転換していこうとする試みで評価できるものである。

しかし解せないのは、その委員会のトップとなる委員長に、江藤前農林水産大臣の就任を予定していることである。江藤前農相は、今年5月、米の価格高騰が続く中で、「米は買ったことが無い。家には米は売るほどある」などと発言し、責任を取って辞任した人である。

食の根幹であり、国の食料安全の基本である米政策を担う委員会の委員長に相応しい人選とはとても思えない。米の価格だけを考えても、生産者と消費者の双方に影響する微妙なバランス感覚が求められる職責であり、国民の神経を逆なでするような発言をするような人には務まらないと思うし、取り纏める政策が国民から信頼を得られるとは思えない。

国民からこの人ならと信頼される人選を再考すべきである。

【通信VIII】令和7年9月14日 記

無念と歓喜 二つのおろし

9月7日の夜は、「無念」と「歓喜」の降ろしが世間を騒がせた。『石破降ろし』と『六甲おろし』だ。

先の参議院選自民党大敗北の責任を追及する石破降ろし、9月8日の自民党総裁選前倒しの意思確認結果を待たずして、続投の勝算無し、と判断した石破総裁は党内の分断を憂慮し、自ら身を引く決断をした。無念の石破降ろしだ。

阪神タイガースは、9月7日の対広島戦に勝利し、2位巨人に17ゲーム差をつけ、残り17試合で、史上最速でセ・リーグ優勝を決めた。歓喜の六甲おろしだ。

監督も総裁（総理）も選手起用・閣僚人事は自分で決める。必然的にその結果には、責任を持たなくては行けない。至極当然の話だ。ただ政治の世界では、国民の監視の目がある。そして選手（議員）は、選挙で選ばれるという試練がある。また個々の議員には後援会もあり、チーム内にも厳然として派閥が存在する。必ずしも一枚岩ではない集団（政党）をどう運営して国をより良き方向に導いていくのか。党首には厳しい政治手腕が求められる。野球の結果は、国民生活に直接的な影響は無いが、政治の結果はわれわれの生活に直接的に影響する。だれが政権を担当しようとも、国民目線で厳しくチェックし、政治家も国民も共に歓喜を分かち合える政治が行われる国であって欲しいものだ。

【通信IX】令和7年10月5日 記

大相撲の醍醐味 横綱決戦

大相撲秋場所千秋楽は9月28日、東京の両国国技館で行われ、東横綱大の里が結びの一番で西横綱豊昇龍との決戦に負け、13勝2敗で並んだが、優勝決定戦を制し、2場所ぶり5度目の優勝を果たした。

大相撲は番付の重みということがよく言われる。最高位は勿論、横綱だ。ところが幕内最高優勝者を見てみると、昨年7月場所で横綱照ノ富士が優勝して以来、前場所まで6場所連続で、横綱の優勝が無かった。久しぶりの横綱の優勝で、横綱自身ほっとしているだろうが、それにもまして一番ほっとしているのは、日本相撲協会であろう。しかも横綱同士の優勝決定戦は、2009年秋場所で朝青龍が白鵬を下して以来で、16年ぶりとのことで、大いに土俵は盛り上がった。

やはり大相撲の醍醐味は、千秋楽に横綱同士が優勝をかけて激突するところにある。今場所は、本割、優勝決定戦と横綱同士の対戦が2番もみられ醍醐味を満喫できた。

横綱は、大の里25歳、豊昇龍26歳と若く、大いにこれからの活躍が期待できる。栃錦と若乃花の栃若時代、柏戸と大鵬の柏鵬時代、2代目の若乃花と貴乃花の若貴時代といったように、若き両横綱が切磋琢磨して令和の大相撲を益々盛り上げて貰いたいものだ。



勝手に書きます！

言いたい放題名作映画紹介

第2期 機械 乾 寛

第10回

ついに最終回である。最終回は洋画邦画ともにしみじみとした感動を呼ぶ作品「スパルタカス」と「二十四の瞳」である。すでによく知られた映画であり、前者は奴隷剣闘士のリーダーとなりローマ帝国に反乱を起こした勇者の物語、後者は小豆島小学校の女性教師と12人の教え子たちの物語である。時代、場所、ジャンル等すべてが真逆の映画と思われるだろうが、いやいやそうではない。前者は派手な大活劇、後者は地味な生活ドラマではあるが、ともに社会の不平等を告発し民主主義の大切さをしっかりと訴えている。今回で終了なので、他の映画に対するコメントも交えながら言わせてください。

※57号に掲載すべき原稿だったため、昨年執筆当時の出来事も挿入しています。

「スパルタカス」1960年

スタンリー・キューブリック監督 コーク・ダグラス

公開されたときは中学生になったばかりの頃だから、劇場で見た記憶はあるが、リバイバル上映だったと思う。前年にローマ帝国を舞台にした大スペクタクル映画「ベン・ハー」が公開され、そちらの方がアカデミー賞をほぼ独占する大ヒットとなったため、どちらかというで見劣りする感じだったが、当時の友人がしみじみと語った。「両作品とも史劇の超大作であるが、『ベン・ハー』より『スパルタカス』の方が好きだ。」と。確かにそうかもしれない。前者の方がエンターテインメントとしてはより楽しめるが、キリスト教の奇跡がテーマとなっている。それに対して後者は、奴隷解放というまさに現実の世界の出来事がテーマであり、私の趣味、あるいはメッセージ性から言ってもこちらの方が感動深い。しかも事実に基づいた物語である。古代ギリシャにはスパルタという都市国家があり、軍事を主とした厳しい訓練で知られている。スパルタカスとはスパルタから来た人、という意味もあるらしいが、実際にはスパルタ国とは無関係のようである。奴隷解放というと、アメリカのリンカーン大統領を思い出すが、実際にはそれより2000年も前にそのルーツはあったのである。有史以来、武力に優れた国家や人が社会を構成してきたが、実はその社会の繁栄を支えていたのは奴隷制度という不平等社会だった。奴隷たちの中には、ずっと自由を求める思いが育まれていたのだろう。そのヒーローがスパルタカスである。いつの時代にもどこの国でも似たような事はあったのだろう。日本でも、江戸時代の農民一揆などがそれにあたり、だいたい失敗に終わるが、スパルタカスの反乱も結局はローマ軍に敗れ失敗に終わってしまう。かろうじて妻と子どもが生き残るが、そのことに、いずれ奴隷制度というものはなくなるべき、という作者や監督のメッセージが込められているような気がする。

第一の見どころは終盤のローマ軍との戦いの場面である。広い草原にローマ軍と奴隷たちが向かい合う。コンピュータ映像など全くない時代である。おそらく数万人のエキストラが集められたのではない。上空から軍団の全容を捉え、行進から戦闘モードへ変更されていく動きが実戦さながらに撮影されている。しかしその場面が短すぎる。せつかくのクライマックスの場面である。あらゆる角度から望遠、接写等織り交ぜ、カットバックを繰り返し、サウンドトラックとシンクロさせ、この人海戦術そのものの豪華画面をもっと長く楽しみたかった。ちなみにスピルバーグの戦争映画「プライベート・ライアン」では、冒頭にノルマンディ上陸作戦の激しく残酷な戦闘場面が20分以上続き迫力満点である。不満は他にもある。最終戦の前にローマ軍は反乱軍の討伐隊を送るのだが、無能な司令官のために全滅してしまう。ところが、この戦いの画面がほとんどないのだ。前後編3時間半の超大作であり、編集でカットされたのかどうか知らないが、この種の映画の醍醐

味はすさまじい戦闘場面にあるのであり、これが省略されてしまつては実に物足りない。

一方、この視覚的効果に対して心情面での見どころは、剣闘士としての戦いの場面である。実はスパルタカスは、最初は社会の底辺を支える鉱山労働奴隷であったのだが、反抗心が強いことを見染られて剣闘士として興行主に買われるのである。闘犬や闘鶏と同様、観客の面前で娯楽の一環として人間に殺し合いをさせるのだから残酷なものである。ローマ貴族夫人の酔狂で戦わさせられるのだが、この試合でスパルタカスは負ける。本来なら対戦相手に殺される運命なのだが、ここで事件が起こる。まだこの映画を見ていない人のためにあえて詳細は書かないが、ほとんどの人が、他人を思いやるあまりにも悲痛な思いを共有してしまうはずである。そしてこの事件が反乱勃発への伏線となる。現役時代、有給休暇を利用してアメリカへ一人旅をしたことがある。目的の一つはアムトラックに乗って大陸横断することだったが、シカゴからロスへ到着した後テーマパークのユニバーサル・スタジオへ行った。そこには往年の映画の有名撮影現場が残されていたが「サイコ」の一軒家ホテルと共に「スパルタカス」の円形闘技場も残されていた。画面ではかなり広いと感じていたが実際には意外と小さかった。

今までの映画紹介では脚本家のことはほとんど触れなかったが、ここでは触れてみたい。ダルトン・トランボというアメリカ人であるが、民主的思想の持主であったことからアメリカの映画界からいわゆる「赤狩り」で追放されている（ちなみに追放した側の俳優は「ジョン・ウエイン」「ロナルド・レーガン」「ロバート・テイラー」…、なぜかフムフムと思ってしまう）。しかし脚本を書く腕は素晴らしく、ゴースト・ライターとして手掛けた有名な映画「ローマの休日」がアカデミー原案賞を受賞する。その事実を知ったコーク・ダグラスがあえて脚本をトランボに依頼したようだが、この円形闘技場のシーンのすばらしさに感動し、それまで秘密だった脚本家の本名がコーク・ダグラスの責任において公表されたいらしい。このことは映画「トランボ ハリウッドで最も嫌われた男」で明かされているが、この場面はとても重要な山場であり、映画にとってはシナリオやセリフがいかに重要か、ということを知られる。「ローマの休日」はどこかの国のプリンセスがホテルからローマの街中に抜け出し、様々な冒険をし恋もする、といった平凡な話である。それなりに楽しく鑑賞できるが、その裏側には、自由な生活が欲しい、というテーマがしっかりと込められているような気がする。そしてその思いも結局は成就しない。ということからして両者とも同じテーマの映画と言えないこともない。「ローマの休日」は一応平和でハッピーエンドなのだが、一夜で終わってしまった新聞記者との恋の切ない幕切れであるラストシーンが最大の山場である。胸いっぱい感動と余韻が残る。かつてローマを訪れた際、ひとりで市内をぶらぶらし、やつ

と見つけたラストシーンの現場であるコロナ宮殿に入ろうとしたが、すでに閉館時刻を過ぎており、どうしても入れてもらえなかったのが今でも心残りである。

さらに、監督についても気になったことがあった。スタンリー・キューブリックは異色の監督として知られているが、実は以前紹介した「2001年宇宙の旅」の監督でもある。古代史劇とSF、まるで両極端の組み合わせである。大規模の戦いの場面を愚直に実写で通したが、8年後にはすばらしいトリック撮影で大宇宙を表現した（もちろん実写で撮れるはずがないから当たり前なのだ）。ただ、内容を考えると確かに共通点はある。それは「反乱」かもしれない。スパルタカスと同様コンピュータの「HAL」も人間に反抗して自分の世界を作ろうとする。今でこそ、AIが人類を超える能力を持つかもしれない、とか何とか言われているが、半世紀以上も前に同様のことを考えていたわけだ。しかし、両者とも企みは失敗に終わる。この深読みは単なるこじつけかもしれないが…。

当初スパルタカスは鉱山で働かされていた。ところが格闘家としての素質を見出され剣闘士として訓練を重ねる。仲間の奴隷たちもみんな剣闘士である。毎日生きるか死ぬかという世界で生活しているのだから、当然みんな強靱な剣闘士に育っている。奴隷を管理している連中より、はるかに戦闘能力は大きかっただろう。ましてや、一般人にとって「死」とは自由を失う恐怖そのものであるが、奴隷たちは苦痛からの解放ととらえている。死を恐れない軍団に勝る軍団はないであろう。言い方を変えれば、ローマ国家は内部に恐るべき危険物を抱えていたことになる。単に石の採掘や農作業をやらせていれば問題ないだろうが、将来自分たちの敵となるかもしれない軍団を育て強化していたわけだ。そして、ちょっとしたきっかけで反乱の火が付くが、剣闘士の集団はその能力を十分に発揮し、誰も手が付けられないほど巨大化してしまった。そのことを今の時代に置き換えてみると、変なことを考えてしまう。今や世界平和は核兵器抑止力のバランスの上に成り立っている、と言われている。そして、現在核を持っている国は、既得権だと言わんばかりに核を手放すことはせず、むしろ他国を威嚇し、さらに他国の核保有を許そうとしない。この上なく利己的であるが、対抗するすべもない。しかし核兵器は目的地まで運び、そこで爆発させて初めて威力を発揮する。であれば、今最もその恐怖に直面しているのは核保有国ではないか。遠隔操作で他国の核兵器を爆発させる装置が開発されれば、核保有国の優位性は一気に消滅してしまう。具体的にそんなことができるかどうかは分からないが、おそらくコンピュータで管理されているだろうから、サイバー攻撃のレベルが上がれば不可能ではないような気もする。ハッカーにとっては実にやりがいがあるはずだ。国内に強力な反乱軍団が出現するのと同じ状況であり、核兵器削減が一気に進むのではないだろうか。

変な妄想はさておいて、映画に戻る。終盤でもう一つの

感動的な場面がある。ローマ軍はリーダーを虐待するために、捕虜となった奴隷たちの中からスパルタカスを探し出そうとする。しかし「名乗り出よ」という命令に対して、捕虜が次々と「I'm Spartacus」と叫ぶのである。尊敬されるリーダーの証拠でもあり、スパルタカスにとってはこの上もない満足感があったろう。自由を求めて反乱を起こしたが結局は失敗に終わり、仲間全員が殺されることになってしまった。別に戦いを望んだわけではなく、普通の人間に戻りたかっただけなのに…。でも、まだみんなが自分を信頼してくれている。反乱を起こして良かった、と。ネットをチェックしている時に知ったのだが科学的社会主義の創始者カール・マルクスは最も尊敬する歴史上の人物としてスパルタカスを挙げている。労働者階級の解放者として位置付けていたのだろうか。

さて、ラストシーン。ローマ軍と政治的に対立していた元老院議員により自由を得たスパルタカスの妻は、生まれただけの長男を連れてローマを脱出する。そして、その途中で十字架に縛り付けられたスパルタカスと遭遇する。街道沿いに延々と処刑された奴隷たちが晒されているのだが、そこにスパルタカスはいた。彼女は彼の足もとに駆け寄り、まだ生きているスパルタカスに息子を見せ、しっかりと息子を育てる、と言い残してその場を去る。お決まりのラストシーンである。以前見た時に、スパルタカスは処刑されてすでに死んでいたような記憶があるのだが、今回見直したら生きていた。ただ、これは気に入らない。生きているうちにお互いに会える、という人情的なシナリオは、それはそれで良いかも知れないが、いかにも「作り物」という感が否めない。スパルタカスを見つけるがすでに死んでいた、とするのがむしろ感動的なラストシーンになるのではないだろうか。スパルタカスは死んでも息子は生きている、彼の意志つまり奴隷解放は将来必ず復活する、という映画のメッセージは間違いなく伝わるのだから。

この文章を書いている最中にアメリカ大統領選挙があり、トランプが大統領に再選された。個人的には、今後の世界情勢がどうなるか、かなり心配ではあるが心配しても仕方がない。朝日新聞のトランプ当選報道と同日の天声人語に興味あるエピソードが書かれていた。西部劇「真昼の決闘」のゲーリー・クーパー演じる保安官が歴代のアメリカ大統領はとてもお気に入りのようで、特にアイゼンハワーやレーガンが好んで観たらしい、と。悪党どもと孤軍奮闘する強い保安官に自分を重ねる大統領でいいのか、とトランプを揶揄する思いが透けて見える。一方、ケネディ大統領が「スパルタカス」を公開時に観劇し大絶賛した、ということはあまり知られていないようだ。彼が暗殺されたニュースを知ったのは、確か私が中学3年の11月23日勤労感謝の日で、阿南高専入学を目指して受験勉強にいそんでいた頃だった。暗殺の背景を暴露したオリバー・ストーン監督の映画「J・F・K」もお勧めである。

「二十四の瞳」 1954年 木下恵介監督 高峰秀子

昭和初期、瀬戸内海の小豆島を舞台にした女性教師と教え子たちの物語である。以前に紹介した「喜びも悲しみも幾年月」と同じ木下恵介監督作品であり、ただ日常生活を淡々と描いているだけなのだが、静かで純粋な感動が胸を打つ。何十年も前であるが、組合の文体活動でバスを仕立ててスキーに行った。当時は冬のレジャーとしてスキーは大ブームであったが、帰る日の朝、あまりにも冷え込んだためバスのブレーキエアラインの水分が凍り付き、ブレーキが効かなくなったのでしばらく旅館で待機することになった。その時TVで放映されていたのがこの映画であり、前日アフタースキーで酔っ払い騒いでいた若者（もちろん私も含めて）が何人も涙を流して観たのである。映画館の暗闇ならまだしも、多くの人と一緒にテレビを見ながら涙を流すのはちょっと恥ずかしいが、本当に感動すれば涙を止めることはできない。良い映画の証拠でもある。

今、録画したディスクで再度鑑賞してみたが改めて感じることも多い。古い映画であり音声聞き取りにくいのは仕方ないが、ほぼ全編に渡って小学校唱歌が背景に流れ、児童たちの合唱場面も多い。郷愁を誘う大きな要因であろう。この映画は反戦映画として知られており、もちろんその通りであるが、私自身はむしろ女性自立をテーマにしていると感じている。今頃になってやっと女性の権利向上とか社会進出等での差別が公然と議論されるようになってきたが、原作者の壺井栄自身が身をもって体験したことを踏まえて書き上げたのであろう。ちなみに壺井栄は1899年8月5日生まれであり私と誕生日が同じである（別にど

うってことはないのだが）。49歳年上であり、いわば祖母に当たる年代でありなんとなく親しみを感じている。

この映画は、主人公の女先生（名は大石先生）が小豆島の小学校分校に赴任する場面から始まる。学校までの距離が長いので自転車で通勤する。当然洋装であり、田舎そのものである島の人々、特におばさん連中からは当然浮き上がった存在である。しかし、彼女は自分の思った通りに行動する。かといって島民の人々と対立することは全くない。それは彼女が島民の人々の中に進んで入っていき、壁を作らず、謝るべき時にはしっかりと謝るからである。台風が過ぎ被害の後片付けをしている時に、子どもたちを励まそうと冗談を言い大笑いしていると、近くのおばさんから「人の不幸がそんなにおかしいのか」と注意される。もちろんそんなつもりは全くないのだが、言い訳もせずすぐに「すみません」と謝り、子どもたちには「先生の失敗の巻き〜」とおどけてあつけらかんと処理する。この天真爛漫さがいい。主義主張に意地を張らず、認められていなくても自分から進んで世間の中に飛び込んでこそ本当の教育ができる、という信念があるからこそであろう。最初の授業でクラス全員の出席をとるが、そこからすぐに大石先生は新1年生12人の心をつかんでしまう。形式的な偉ぶった典型的な官僚先生ではなく、本来の先生とはどういう役割なのか、ということをしつかり分かった上で実践している。それぞれのあだ名をメモし、みんなと一緒に遊び生徒の中に溶け込んでいく。前回紹介した洋画「いまを生きる」と全く同じ状況である。まず初めに生徒の信頼を得ることは教師であることの必要条件であることは間違いない。

よろず
伝言板

悠久校友会HP

県内企業就職支援サイトについてご案内

悠久校友会HPでは、徳島県経営者協会と連携し、県内企業に就職を希望する同窓生のための就職支援サイトを開設しました。



紹介までの流れ

サイト内フォームからエントリー

卒業年度や
コースなどを登録

高専の就職担当教員から、希望者へ企業を紹介

詳しくはHPをご確認ください。

また同サイトでは、同窓生を積極的に採用したい企業HPへのリンク（徳島県経営者協会管理）が出ております。是非一度サイトをご覧ください。

ホームページへGO!



やがてそのことはある事件で現実になる。大石先生がみんなと遊んでいる最中に足を骨折する。しばらく学校に行けなくなるのだが、男先生（寅さん映画の御前様役の若き笠置衆が演じている。演技をしているのか地通しているのか知らないがよくはまっている）の授業は全く面白くなく、全員が大石先生に会いに行くのである。おそらく近所から遠い所など行ったことがないであろう小学1年生たちが、対岸に見える大きな煙突を目指して歩き始めた。感動的というより、しみじみと心が和むいい場面である。おながが空いても黙々と歩き、女の子のわらじが切れると男の子が自分のわらじを貸してやり、誰がリーダーでもなく歩き続ける。みんなの大石先生を想う心が一体になっていた。幸い、バスで治療から帰る途中の大石先生が彼らを見つめる。教え子たちが会いに来てくれた、と知った時は本当にうれしかっただろう。自分の教育方針に自信を持ったに違いない。全員を自宅に連れて行き、きつねうどんをたらふく食べさせ、全員で記念写真を撮る。この写真が今後様々な場面で感動をもたらす。この事件をきっかけに島民と大石先生の距離はずっと縮まる。大石先生の教師生活の将来は明るいはずだった。

しかしながら時代の流れは思うようにはならなかった。戦争前夜である。個人の平和を願い、家族の幸せを願う思いは、当時の天皇中心国家主義の教育方針とは真逆であった。大石先生がたった一人で戦い苦しむ場面を是非楽しんで(?)ほしい。校長は波風を立てないことだけを信条にした典型的な役人気質で、大石先生をたしなめるしか能がない。また、当時の保守的な男社会の中で女性ひとりが自分の意見を主張することはいかに大変だったことか。結局彼女は初めて担任となった小学1年生が6年生となり卒業する時期に合わせ、教師を辞めてしまう。「スパルタカス」は反乱を起こしたが、仲間もいない大石先生にとっては、闘い続けることはどだい無理な話である。せつかく得た教師の資格がありながら、自分の思い通りの教育ができない、ということだけで職を捨てるのにはかなりの抵抗があったはずである。にもかかわらず、そういう重要なことを潔く決断できる、という力強い姿に惚れ惚れしてしまう。

当時はみんな貧しかった。アルマイトの弁当箱が欲しくてたまらないのに買ってもらえない子、修学旅行に行けない子、子守や家事の手伝いで遊ぶ時間のない子、さらに学校にいけない子。そういった様々な貧しさをテーマにして物語は展開する。今の時代からは見当もつかない貧しい生活だった。やさしい大石先生は何とかしようとするのだが、さすがに慰める言葉をかける以上のことはできない。悔しかっただろうな。貧富の差がある社会では生まれながらにして子供には差別が付いて回る。それは仕方のないこと、と割り切りはするが、よくよく考えてみればおかしな話である。なぜなら子供は親を選べないのだから、本来であれば生まれてくる子供はすべて平等でなければならぬはずだ。赤貧の家庭に生まれた子供に罪があるはずがない。

親の責任もあるだろうし、理想論であることは承知の上だが、それでもあえて言いたい。すべての子どもたちが平等に教育を受けられる社会システムがあつて当然ではなからうか、と。この問題は現在においても決して解決されていない。安易な子供手当と称する現金給付では家族が目的外に使ってしまう恐れも十分にある。教科書、給食、制服、通学費用、医療費等、義務教育に必要なものすべてを無償化して全員が平等に教育を受けられるシステムがなぜできないのだろうか。

われわれ戦後生まれの世代も子供時代は貧しい家庭が多かった。私の場合、子どもの頃は家庭電化製品というものほとんどなかった（アイロン位はあつたが）。母親は朝早く起きると、おくどで薪を燃やしご飯を炊き、その残り火を七輪に移し味噌汁を作る。豆腐や醤油は毎朝近所の八百屋に買いに行く。洗濯はたらいに水を張り手洗いである。我が家に初めて登場した電気製品は電気釜だったかもしれない。電気こたつ、石油コンロ、洗濯機と増えていったがテレビは中学になってからだと思う。父親は結核で入院し、母親は忙しい家事をこなしながら昔の看護婦に戻り一家を支えてくれた。母親の苦勞を知りながら一切手伝いをしようとしなかった親不孝ぶりに反省しきりである（今頃遅い、遅い!）。そんな中でも社会全体が豊かになって行く流れに乗ってそれなりに生活できたような気がする。高度経済成長を実感しながら生きてきた、と言えると思う。戦争もなかった。大筋では戦後の日本の政治はうまく行われたと言えるのかもしれない。かつては「Japan as No.1」と言われたものの今ではその面影は全くないが、国民全体の生活レベルが格段に良くなったことは事実である。国内ではやっとな政治改革の兆しが見え始めたが、世界各地で紛争が絶えない中、これからも平和な暮らしがずっと続いてほしいと痛切に思う。

さて、映画に戻る。時代は戦争に突入する。大石先生の不安は現実のものとなってしまふ。教え子男子5人はすべて戦争に駆り出され3人が戦死する。夫も戦死、2男1女を生むが長男は完全なる軍国少年となる。城山三郎を始め戦後リベラルな活動をした作家や文化人で、当時典型的な軍国少年だった人々は数多くいる。彼らは当時「世の中が間違っている」とは決して思わなかった。天皇を尊敬し国を守ろうと心から純粋に思っていた、と述懐している。その原因は、社会のムードや同調圧力と共に学校教育の影響もかなり大きかったのだろう。以前解説した洋画「西部戦線異状なし」でも同様のことを取り上げた。いわば、このことはいつの世でもどこの国でもあつたのだろう。その中で大石先生は頑張った。壺井栄は自分の思いを大石先生に託して、切々として訴える。それにしても映画の構成上残念な思いもある。教師になる前の大石先生が育った状況はこの映画では一切触れられていない。彼女の信念がどういった環境の中で形作られていったのかは非常に興味がある。個人的な思いではあるのだが、少女時代から描かれていたなら、さらに奥深い重厚な作品になっ

たのではないだろうか。

やがて時は流れ大石先生は再び地元の教壇に立つことになる。そして感動的な終盤につながっていく。教え子たちが歓迎会をやってくれることになる。男子5名の内3名は戦死しているのだから2人、女子は7名の内1人が病気で亡くなり1人は消息不明なので5人、合計7人の生徒たちが集合する。家が貧しく母親と生まれたばかりの妹も死んで、学校に行くことができず女中奉公に出されたままになっていた子も、この時ばかりは、と大阪から飛んでくる。同窓会でもあり、思い出話に花が咲くが、暗く悲しい時を過ごしてきただけあって、どうしても悲しい話になってしまう。そんな中で例の写真が大きな役割を果たす。小学1年生の時全員で撮った写真がいかにみんなの生活を支えた楽しい思い出であったことか。若き田村高廣演じる男子は戦争で失明していたが、見えるはずのない写真を前にして、どこに誰がいてどんな格好をしている、と指さしながら細かく説明する。涙無くして見られない名場面である。そしてもう一つの印象的な場面、それは自転車である。再び大石先生が自転車で通勤できるように教え子たちが先生にプレゼントしたもので、歓迎会の部屋の床の間に飾られていた。

自転車はこの映画では実に重要な役割を果たしている。冒頭は若き女先生が自転車で颯爽と学校へ向かう場面から始まり、ラストシーンも同様に再就職して学校へ自転車で向かう場面である。ところがラストシーンは雨降りなのである。泥道を雨合羽姿で懸命に自転車を漕いで走る。なぜ明るいシーンにせず、あえてこんな暗いシーンにするのだろうか。それは、自転車はまさに大石先生そのものだからであろう。若い時に希望に燃え、意気込んで教師に挑戦したものの頓挫してしまった。平和を望む信条も、女性であっても卑下する必要はない、という態度も、突っ張ってみたけど保守的な世間には何も受け入れられなかった。力不足、無力感だけが残っただけである。生活のために再び教師になったが、昔のように思い切った教育ができるだろうか。無理だろうなあ。そんな心境ではなかっただろうか。であるならば、雨降りが最もふさわしい。バスが追い抜いていく。道路が狭いし、若い頃のように素早い動きもできないから自転車を降りてバスに道を譲る。その時、雨がやんでいることが分かり被っていたフードを脱ぐ。そうだ、バスとは違って、自転車は自分の力で漕ぐ。逆に、漕がなければ何の役にも立たない。ということは、自転車は自分と同じではないか。これからの人生は力不足であろうとも、思いが届かないにしても、教師としてやるべきことはやらなければならない。深読みかもしれないが、雨が上がったことがそのことに気付いたことを表しているのではなかろうか。

蛇足ではあるが、子どもの頃、本当に自転車が欲しかった。友達は格好いい自転車を持っているのに私は貧しかったため買ってもらえなかった。そのことはトラウマのようになっており、自転車には特別な思い入れがある。高専2

年の時に思い立ったが挫折し、退職後再挑戦し10年ほど前にやっと完走した日本一周自転車一人旅もその延長にあった。誰にも同意してもらわなくていいのだが、個人的にはものすごく大きな満足感と達成感がいまだに持続している。その自転車が言わば主役で、感動的な同窓会の場面で終わるこの映画の解説が、同窓会誌悠久への最後の映画解説寄稿文となった。先日悠久同窓会の新しい名簿が届いた。同級生の中でも新たに何人かが亡くなっている。喜寿になる機会に久しぶりの同期同窓会が企画されるだろうか。楽しみに待っていたい。また、故郷から遠く離れてはいるが、久しぶりに小学校の同窓会の声掛けもやってみようか。そんな思いにさせる映画である。

終了に当たって

早いものである。言い古された言葉ではあるが、本当にあっという間の10年間であった。同窓会誌の厚みに少しでも貢献できれば、と好きな映画に関して10年間勝手に書かせてもらった。もとより映画批評などという高尚な能力などあるはずもなく、心に感じたままを、他の人もおそらく共感してもらえないのではないか、という思いで書き綴ってきた。印象深い映画（どうしても古い映画となってしまう）の中から選び、意識してかなり長い文章を心掛けた。単なる映画の紹介ではなく、映画の内容に関するさまざまな思い出にもとどまらず、その映画をきっかけに感じたことをそのまま書き連ねたためである。長つたらしい文章に嫌気を感じられた読者もいたことと思うが、自分の思いの丈を知って欲しかったためであり、できれば共感もして欲しかったためである。自分の勝手な思いであり、当初から「言いたい放題」と断らせていただいた理由でもある。今まで紹介した映画をリストアップした。機会があれば「あ、これは乾が紹介していたな」と見ていただけたら幸いである。

邦画 「砂の器」「切腹」「駅 STATION」「七人の侍」「泥の河」「喜びも悲しみも幾年月」「人間の条件」「日本の黒い夏「冤罪」」「楢山節考」

洋画 「太陽がいつばい」「道」「ショーシャンクの空に」「奇跡の人」「アラバマ物語」「西部戦線異状なし」「2001年宇宙の旅」「キリング・フィールド」「いまを生きる」

まだまだ紹介したい映画はあるが、一旦ここで終了としたい。ただし、同窓会誌への投稿は今後も続けたいと思う。科学や数学に関するテーマで、これまでの人生で感じたことを気楽に書いてみたい。



赤い手帖 (35)

第4期 電気 森田 虔児

横浜市西部の所謂郊外にある我が家からの徒歩圏内に、新たにショッピングモールが進出して来た。二十年余り前に開業した、市営地下鉄と私鉄の二つの駅を繋ぐ形で商店街となる施設が造られ、周辺には、中堅規模の総合病院をはじめ、薬局やクリニックも移転して来た。また全国的に知名度の高い大手電機店が開店し、収容台数の多い立体駐車場も新設された。その四階建てのショッピングモール内には、近場では最近見掛けることの稀な大型の本屋や、シネマコンプレックスのフロアも新設されている。衣料・雑貨関係の店舗に関しては、今のところ集客状況がまだまだであるが、食料品売り場やフードコートのエリアについては、当初から結構賑わっている。またその屋上は、遊園地のような広場に活用され、平日から幼児を伴った親子連れに人気があるようだ。その二つの鉄道駅の周辺に計画されている、高層マンション群建設の着手前である現在のところでは、屋上広場からの四方の見晴らしにも非常に恵まれた状況にある。後期高齢者となる小生にとって、元気で歩ける間に生活圏内にこのような予想外の愉しのスポットが増えたことは、地域での有難い変化と受け止めている。

先日、仕事が休みであった家内に誘われて、開業して間もない、そのシネマコンプレックスに出掛けた。小生自身としては、30年振り位の映画館での映画鑑賞である。チケットは息子が手配して呉れていた様で、木村拓哉と鈴木京香が主演の「グランメゾン・パリ」というのを観た。パリ市街の懐かしい風景が豊富な事も仲々良かったが、開演前の時間帯で、別件の新作映画の予告映像が矢鱈に賑やかに放映されていたのも印象的であった。

昨年春の或る日、縁者の法事に参列したところ、住職の読経の終わり頃に、劉廷芝の「代悲白頭翁」の一節（年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず）が唱えられていた。法話への流れとして採り入れたものだと理解したが、時宗のお寺でのお経の文言としては、小生の思いもよらない展開であった。

人が自らの歳を自覚する契機が、人生で幾つかあると聞く。例えば青少年期においては、甲子園に出場した球児達が自分より若いと気付いた時らしい。また青年・壮年期では、大相撲の横綱が年下だと気付いた時という。更に老年期の場合は、総理大臣が自分より若いと分かった時期など

だそうである。一方、長寿化の時代となり、自身の親族や同僚関係の葬儀に、定年前の現役の頃に参列するケースは、いまや本当に稀な事となって来ている。これが近年に「小さなお葬式（家族葬など）」が流行る背景のひとつであろう。また生活圏の都市集中型・核家族化も相俟って、結構な年齢となっている子や孫世代でも「葬式に参列したことがない」という向きが増えている印象がある。即ち昨今では、比較的近い親戚の人についても、その人生の終焉に立ち会う事や、勤務先の同僚やご近所の肉親の悼みに同席する機会は稀になりつつある。当然だが、菩提寺の存在意識や、お坊さんとの日頃の交流は希薄・皆無となっている。小生の幼き頃には「お初穂」や「お年貢」と称して、村中の家々が、毎年決まった時期にお寺や神社に届け物をしてきた（これが時には、子供のお手伝いの場面でもあった）風習が懐かしく思われる。また、大般若法会の際には、親戚筋の僧侶が、我が家に立ち寄ってから奥の院に登って行く事が年中行事となっていたり、菩提寺での花まつり＝灌仏会に甘茶を貰いに行く毎年の風習も身近にあった。そう言えば町内会で、ここ数年、隣近所の訃報が回らなくなっている。

今や、我が人生も正に後半戦となったので、今年の1月末で新聞の購読を潔く止めることにした。明正寮で暮らした学生時代から変わらずに同一紙を読んで来たので、その全国紙の購読歴は今年で丁度60年目に当る。

自分の部屋を少しずつ片付ける途中で、1970年前後の「青春歌年鑑」というCDが出てきた。南沙織やトワ・エ・モアの時代のものであるが、渚ゆう子やクールファイブ（前川清）の唄もある。1971年に入社した小生の同期に、同志社大卒で学生時代に、渚ゆう子の京都のステージで司会のバイトをしていたという男がいた。ナンパの仕方を同期会の集まりでレクチャする等、面白い人物ではあった。また、会社の2年先輩には、長崎の中学時代に、投手の前川清とバッテリーを組んでいたという方がいた。その「司会業？」の同志社出身者は、堅い社風が合わなかったようで、早々に転職して行ったのであるが、賢くて大人しい感じの、幹部の美人秘書を、抜け目なく嫁にして退社した。一方、前川清と同級生であった人は、小生が63歳の頃に短時間勤務をした会社の社長になっていた。

自分の生涯を振り返って見ると、左程スポーツが得意な方ではなかったが、一度だけ剣道の公式戦に参加したことがある。中学校1年生の時、徳島城址公園にある武道館で開催された、県大会の個人戦に出場したのである。その一回戦の対戦相手は、そのまま勝ち進んで優勝したが、この時の経験と相手選手名を、高専入学後に、一年後輩の湯城

豊勝君（現・名誉教授）に話したところ、「彼は『丹生谷の〇〇兄弟』の一人で、強いことで有名でした」と教えてくれた。丹生谷地区が『阿波の柳生谷』とも呼ばれていた時代の遠い思い出である。

卒業後20年余りが過ぎた頃に、「悠久」事務局宛に、「自分の卒業前に発行された同窓会誌に在庫があれば、着払いで良いので提供してほしい」と葉書を送ったところ、「生憎バックナンバーの取り置きがないので、複写したものをお届けします」と丁寧な手紙同封で、創刊号から第3号までの全コピーを送って呉れた。その時分の同窓会の世話をしていたのが、件の湯城先生であると知った。当時の「東京支部」の同窓会で、久し振りにその湯城先生に再会した際、僭越ではあったが「同窓会誌に、特定個人に対する誹謗・中傷ととれる一部の投稿が最近気になる」と話したところ、「実は、事務局としても苦慮している」という事であった。その後に善処された印象である。

先述の「丹生谷」と同様に、丹沢や丹波・丹那という「丹（あか＝朱の意味）」の付く地名が全国に散見される。丹沢の方は「谷」の意味らしく、また丹波のほうは（朝廷に納める）「赤米（の丹い稲穂が揺れる）」という意味だそうである。一方、丹那の方は地形の「棚」らしいが、徳島県の丹生谷に関しては、朱の原料となる「辰砂」という鉱物が採掘出来た場所らしい。「朱」は弥生式文化の時代の後半（2～3世紀）には権力の象徴であり、献上品や交易にも活用された時代が続いた模様である。古代の人々が、四国地方の山中で、かかる鉱脈を探し当てた努力や技術に感服する。

最近のニュースで、自分と似た年齢の著名な方々の訃報を目にすると、心なしか矢張り気になる。外岡秀俊（享年68）のように早世と言える方をはじめ、例えばこの一年ほどでは、八代亜紀（同73）、谷村新司（同74）、火野正平（同75）、西田敏行（同76）、小倉智昭（同77）など多彩である。その中には、徳島市出身でもある田中啓二氏（同75）のような、ノーベル賞級の学者も含まれている。また、訃報により、最近迄存命であったことに驚かされる長寿の方々も交ざっている。例えば、三浦洸一（同97）、依孝太郎（同94）やアランドロン（同89）などである。一方、著名人の中には、1928年生まれの暉峻淑子さんや、大村崑さん（1931年生まれ）、五木寛之氏（1932年生まれ）のように、今もご健在で、新聞やTV等で警咳に接することの出来る方もいる訳であり、小生の如きは未だ未だであると、頑張るべき縁となっている。なお、若い時分に「北帰行」を著したことで有名となった外岡秀俊は、その晩年を故郷の北海道で暮らしたようだが、8歳ほど年長で、かつ同郷でもある池澤夏樹が、新聞紙上

の追悼文で、「未来の親友を失った思いだ」と結んでいたのが、とても印象的であった。

気が付いてみると、いま住んでいる町内に嘗て毎朝・夕に響いていた、近所のお寺の鐘が、このところ全く聞こえて来なくなった。先代の住職が亡くなって何年か後の事象である。寺男の不在等で、住職が、朝の「お勤め」の形態を変更したのかとも思うが、所謂檀家ではない新しい世帯が町内に多く移住して来た事もあり、住宅地の密集感が増しただけでなく、「毎日の早朝の鐘」を「騒音」だと見做すクレームがあったのかも知れない。何せ、情緒を感じる習わしでもある筈の「除夜の鐘」を、「うるさい」と怒鳴り込む輩が現れる昨今である。この寺は、南竺山密蔵院と称する、室町時代から存在する真言宗の寺で、平安時代（819年）に鎌倉・手広に弘法大師が開山した青蓮寺＝鎖大師の末寺としての歴史が有り、永く地域住民に親しまれて来た存在である。新任職となって暫くして、その境内に「四国八十八カ所ミ二霊場」が設けられた。

昨年末に、小学校の同窓会があったので、12年振りに山奥の田舎を訪ねて参加した。同窓会の翌日に、バスも通わなくなり廃屋も多くなった実家跡付近を散策したが、「見納め感」の半端なさには閉口した。小生らが学生の頃に「明治百年」と言われた時代から久しいが、今年は更に「昭和百年」というフレーズをよく耳にする。百年と雖も、過ぎてしまえば正に「光陰矢の如し」という言葉を想起する日々である。

実は、その小学校の同窓会当日（11月10日）の同じ時間帯に、同窓会場の下のフロアの談話室では地元のマラソン大会実行委員の打合せをしていたらしく、何と主催者側のメンバーとして、4Mの清崎（内谷）君が加わっていたと、同窓会が開きとなった後で、フロントの女性が教えて呉れた。現役の頃の清崎君は、この地区に実家のある女性とご縁があり、トヨタ自動車を辞めて当地の郵便局長として勤めておられたので、町民には知名度が高い印象であった。高専の同窓会で最後にお目に掛かってから、彼とは既に30年近くも逢っていないので、貴重なすれ違ひとなった。同窓会場は、廃校となった小学校跡地を活用した施設であるが、ごく最近の情報では、諸般の事情により今年の9月末日を以て通常営業を終了するそうである。

その小学校に明治時代から在る立派な校門は、宮ノ下から八幡神社の境内まで三百段ほども続く長い石段の中間辺りに面している。夕方になって、その神社の本殿を訪れると、偶々宮司らしき人に居合わせた。子供の頃「年貢」を届けに、時々社務所を訪ねたものだが、当時の宮司が、弟

の同級生T君の父親であったので、懐かしくなり声を掛けると、何と現在の宮司は、かのT君のご子息であった。先々代が病弱で、T君は若くして神職を継いでいたらしく、ごく最近、息子に世代交代したばかりだそうである。また、その八幡神社の近所にある床屋に顔を出すと、子供時代に馴染みのあった先々代の姿はどうにもなく、そのお孫さんに当る人が店主となっていた。身近にいた職業の人達での、「世襲」という現実を目の当たりにして、自分らも最早現役世代ではない事を改めて実感した。

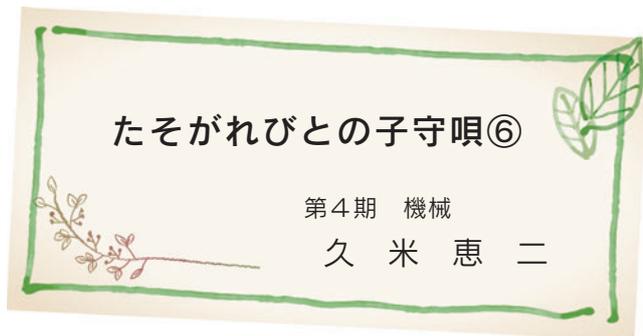
さて、最近では鎌倉の寺社をひとりで巡る様なことは皆無となっている。振り返ると、観光目的でなく、日常生活の一場面、思いがけず名所・旧跡に関わるときに、忘れがたい思い出に繋がるものである。

入社して数年が経ち、東京で大学生であった4歳下の弟を伴い車で帰省したことがあるが、その際、弟の同級生で、勤務先が都内だという一人の女子と徳島で出会った。東京行きフェリーで戻る日、彼女も我々の帰京に帯同することになった。彼女が鎌倉在住とのことで、弟を世田谷で降ろしたあと、小生の車で鎌倉まで送り届けたのであるが、その住いが西御門という土地にあった。嘗て、源頼朝が大倉郷に鎌倉幕府を建てたとき、四方に造った門の内、西側の門に当る由緒ある地名である。彼女は四姉妹の末っ子で、その姉妹全員が、西御門の旧家の敷地内の一棟を借り切って暮らしていた。その内、小生の一学年下である三女には面識があったので、姉妹の父親である人が、小生の剣道部時代の社会人の師範であったことに気が付き、改めて驚いた。その姉妹達との、その後の交流はないが、普段では足の向かない鎌倉のひとつの地名に馴染みが出来た契機となった。

少し遡って入社直後の頃のことである。所属した事業所では、本社採用の大学院卒から高専卒までの配属先が事業計画の都合で決まらず、向こう一年間を総務部勤務課所属の扱いになっていた。一方、事業所採用の高校・短大卒の人達は2週間ほどのオリエンテーションを経て、各部署に配属された。そのオリエンテーション期間の終わる頃に、全新入社員合同のレクリエーションが催された。フォークダンス等の交流もあり、相互に多少の面識が育まれた訳である。その折り、事業所採用の女子の内に、学卒の男子達にひと際評判の良い人が居た。色白で、一見、憂いがあるが、儂げな美少女の印象であるが、ソフトな口調での会話に濃み無く、時には零れるような笑顔をみせるのである。そのイベントから数週間が経ったころの退勤時、本屋にでも寄ろうかと、最寄駅方面の商店街に向かってしていると、桜並木の下を、同じ方向に独りで歩いている彼女と遭遇した。彼女も小生を覚えていた様子で、声を掛けると、横須賀方

面から通っているとの事であった。そこで、途中下車して鎌倉に寄り道しないか誘うと同意して呉れた。鎌倉駅で降り、二人で若宮大路から些程遠くない妙本寺を訪ねてみた。そこは比企能員に所縁の寺であるが、観光で訪れるような所ではなく、黄昏時の広い境内に他の人影は無かった。小生は社員寮に住んでいる事を話し、この先連絡したい時はどうすれば良いか訊くと、小生の手帳に住所と名前を丁寧な字で書いて呉れた。名前は千鶴とあった。綺麗な人には、美しい名前が付けられるものだと、何だか感心した。聡明な印象の彼女には、スポーツ万能の趣もあった。微笑み乍ら「私、本当は剣道がやりたかったのよ」とも言った。鎌倉駅への戻り道では、山門辺りから若宮大路まで、自然に手を繋いで歩いた。「白魚のような綺麗な指」という言葉が、ふと脳裏に浮かんだ。独身時代を含めて、女性と手を繋いで歩いたのは、この時限りである。妙本寺の境内や参道の随所には、可憐な著莪の花が咲き乱れていた。当時、事業所内には5000人程が働いており、自由度の乏しかった研修員の立場の小生としては、社内で彼女と偶然に再会する機会は期待出来なかった。その人は、家人の病気が何かで出社が困難となり、程無く会社を辞めたと風の便りを聞いた。スマホは疎か、インターネット環境もPCもなかった、今から55年ばかり昔の思い出である。

今年には家族6人で、上の孫の塾の夏期講習が終わった8月後半を、オアフ島で過ごした。孫達にとって二年連続3回目のハワイでの夏休みとなった。今回のホテルは、6年前と同様ワイキキビーチの傍にしたので、朝夕に浜辺とホテルのプール等を何度も往復するのに好都合であった。初日には別のホテルの劇場で、シルク・ドゥ・ソレイユ「アウアナ」の公演を観た。その劇団がコロナ不況で、つい最近まで倒産していたという情報は初耳だった。また今回、ノースショア方面を久し振りに訪れ、ハレイワタウンやドール・プランテーションを散策した。小生が部屋で留守番をした際は、カイマナヒラ（ダイヤモンドヘッド）の山肌の色模様が、陽射しによって刻々と変遷して行くのを、窓から飽かず眺めて過ごした。最終日の前夜には、もうひとつ別のホテルのビュッフェにも行って見た。泊まったホテルのラウンジだけでなく、カラカウア通り周辺の、日本企業が経営するアジア料理店を始め、うどん屋やおにぎり屋も活用した日々に、充分楽しく過ごす事が出来た。以前と比較すると、昼間の時間帯で救急車・消防車の出動回数が意外に多かった点と、人通りが絶えた夜間に、毎日のように暴走族のバイクや車がワイキキビーチ前の道路を徘徊するのが、変化として印象的であった。また、帰国の日にピックアップのバスに乗ったところ、エアコンが故障した車両に遭遇して、蒸し暑いままホノルル空港に向かったのが、珍しい体験となった。



①「悠久同窓会」

この夏、今までの「悠久同窓会」から「悠久校友会」という形に改まることになった。大きな違いは、現役学生が入会すると、5年間在籍しなくとも会員になれるということだ。大きな前進だと思う。私の友人にも該当者がおり、晴れて入会できることを喜んでいる。

新聞の社会面、特に政治家などで学歴詐称問題がよくおこるが、阿南高専校友会は1日でも在籍していれば会員になれる。学歴詐称問題はおこり得ないだろう。

②「運転免許更新」

松茂の免許センターに運転免許の更新に行った。75才以上の方は一般の申請者とは別の場所に集合させられた。30人ほどの老人？が来ていたが、隔離され晒し者にされたようで、みじめな気がした。俗に言う後期高齢者とは、こういうことかと思知らされた。

阪神タイガースのキャップを被り、ポストンレッド・ソックスのパーカーを着、ジーンズ姿で行った。服装だけは他の人より断然若いと自負できた。ただ視力検査や写真撮影のときはキャップを脱がねばならず、ハゲ頭がまるわかり。若造りしてきたが、あまり意味はなかったようだ。

③「悠久ゴルフ大会」

悠久ゴルフ大会に参加した。負け惜しみのようなのだが、私の場合、スコアは気にせず青々とした芝生の上を歩くのが

目的なので、誰が優勝しようと、あまり関心がなかった。しかし、今回優勝したのが、6期生の長野君だとわかり、ちょっとショックだった。

長野君もゴルフ大会参加の常連で、スコアもだいたい120前後。向こうも私の実力を知っており「いつまでも仲間でしょう！」と語り合ったものだ。ところが今回93という驚くべきスコアを出したという。「全然練習なんかしていませんよ」と言いながら、秘かに練習場に通っていたのではないかと思います。

参考ながら、54名の参加があり、1位が長野君で、54位が私であった。

④「大の里と孫」

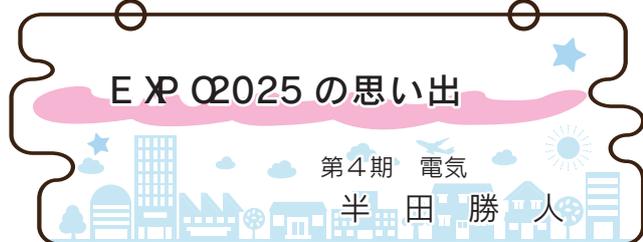
相撲で今一番注目されているのは横綱大の里だろう。強いのはモンゴルの力士ばかりなので、日本の相撲ファンも応援しているはずだ。私もそのひとりだが家内が「うちの孫に似ている」と言うのも応援する理由のひとつだ。

3才の女の子だが、ズングリした体型で、顔つきも似ている。父親である、私の息子に似たのだろう。外孫に2人の女の子がいるが、2人とも針金のように細く、バレーや新体操の選手になれそうに思うが、うちの孫は相撲か柔道部に入るしかないのでは。もっともそれ以前に、元気で無病息災を願っている。

⑤「大きな柱時計」

私が子供のころはゼンマイ式の柱時計が普通だった。一週間に一度か二度ゼンマイのネジをまわしていた記憶がある。今築90年の家に住んでいるが、8年前に私の気まぐれで大きな柱時計を買い、玄関の室にとりつけた。

ゼンマイ式ではなく、今様のクォーツ式。電池を入れただけで、知らん間に時刻が合っている。濃茶色で、八角形の箱の中に、長針、短針、秒針が入り、下部は下が尖った五角形で振り子もついている。全く昔のままの形で、古い家にはぴったりだ。この時計をとっても気に入っている。



○ よかったこと

1. 今まで知らなかった国 (Guyana 等) がわかったこと。
2. 英語で会話できる機会が得られたこと。
3. 新聞に掲載されたこと。

※人気のパビリオンには入らずに、並んでいないパビリオンを選んだ。

1. 日程

出発日、6月27日(金)、バスツアー、11:00着で駐車場から西ゲートの入門まで20分かかった。

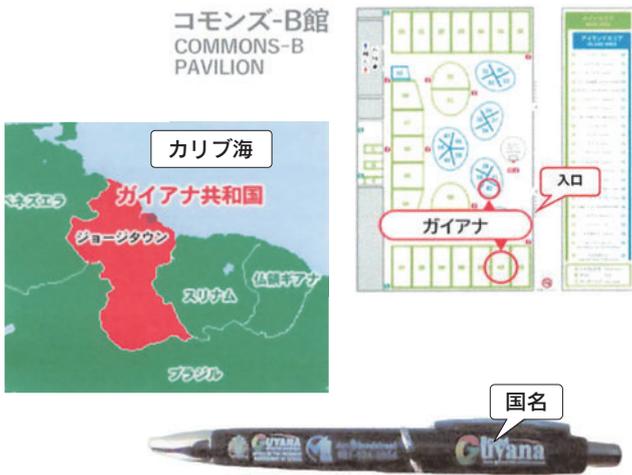
夫婦で、当日の入場者数は13万人、歩数は1.7万歩
持参したものは、ハット・パン・バナナ・ペットボトル・折りたたみ傘・カード・マップ

2. パビリオン (すぐに入れる館を選んだが、午後からはどこも並んでいた)

COMMONS-B 館 (24 カ国が参加)

今まで知らなかった国が多々あった。各国の入口には案内役が立っていて、日本人もいたが質問（日本人が何人いるのか？）したら、タブレットで検索していた。

Guyana (ガイアナ) は、最貧国で公用語は英語で、館の入口近くにあり、行ったら女性が中で座って下を向いていたので、「Hello!」と声をかけて、少し話したらボールペンをくれた。



Chile (チリ) 館

Chile 館に行ったら、入口に現地の女性が立っていたので、会話をしようと思って公用語を聞いたら、スペイン語だったが英語で通じた。滞在期間は1ヶ月程度と言っていたので、交代制らしい。日本は初めてで、寿司

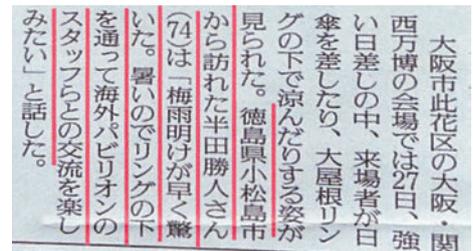
は好きですかと、聞いたら好きと言っていた。
日本と同じで四季があるとのこと。

3. 新聞に掲載された

大屋根リングの下で涼んでいたら、読売新聞社の記者にインタビューを受けた。住所、氏名、年齢、感想を言ったら、翌日 (2025/6/28) の新聞 (31 面) に掲載された。

大屋根リングの下は、外より5℃程度低いとボランティアの人が言っていたが、その通りだった。また、椅子が多く設置されていて、食事をしながら休憩するには最適だった。

大屋根リングに上がったが混雑していて、すごく暑かったので、すぐに降りてきた。



読売新聞
2025年6月28日
土曜日 31面

定年後の楽しみ

第6期 機械
久保道夫

定年退職後は古里である三好市に住んでいます。相続した少しばかりの田畑でお米や野菜を作っています。農作業の合間のゴルフと、新聞への投書を楽しんでいます。先日悠久同窓会主催のゴルフコンペ (於: 月ノ宮 GC) に初めて参加してきました。ゴルフのキャリアは40年と長いのですが、未だに100の壁どころか110の壁に手こずっています。

投書のきっかけは毎日新聞の川柳欄です。かれこれ7年ほど投稿していますが、一向に採用されません。川柳の才は無さそうなので、ならばと一言川柳みたいな『ふんすい塔』出してみました。

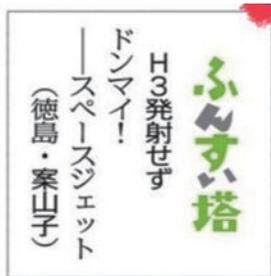
最初の掲載作「ゼネコン談合事件」。2018年に起きたリニア新幹線工事で、大手ゼネコン4社が受注に際し談合して起訴された時に投稿し採用されました。



早速東京に住む娘と息子に掲載の旨を連絡して、毎日新聞を購入して見つけてもらおうと連絡しました、ところがを見つけることはおろか、見つけた後も意味がわからないとの返事がありました。「同じ穴のムジナ」とトンネルを引っかけた事を説明する羽目になりました。

2作目は2023年3月のH3ロケット搭載の人工衛星1号機が打ち上げに失敗した時のものです。当時国産初のジェット旅客機スペースジェット (当初は製造元の三菱重工にちなんでMRJと呼ばれていました) の開発に苦勞し

ていたことと結びつけました。その後 H3 ロケットは改良され2号機から5号機まで4回連続で成功し、搭載された人工衛星は今も順調に地球を巡回しています。片やスペースジェットは、同年開発が中止となりました。米国 FAA の型式証明が取得困難になったのが主要因とされています。



電機会社で家電製品の開発に携わっていたとき、アメリカの電気用品の安全規格である UL 規格の取得に苦労した経験があります。安全基準において、具体的に試験方法を明示してくれているのはいいのですが、そうでないものは規格を読んだだけではわかりません。ましてや、高度に複雑な旅客機の取得はハードルが高く、開発期間の長期化で事業が成り立たなくなったようです。開発陣はさぞかし無念だったと思います。



3作目は 2024 年 2 月に掲載されました。

いまだに尾を引く自民党の裏金事件です。裏金が発覚して、訂正報告された政治資金報告書の支出欄に「不明」の欄が多くありました。ちょうど確定申告の時期と重なり、

税務署員の苦勞をおもんばかって作りました。実際かなりの苦情が税務署に来たそうです。私もわずかばかりの所得税の還付を受けるため医療費控除の書類作成中でした。支出先に「不明」と書きたかったものです。

日曜版には『みんな集合』という読者の投書欄があります。最初に採用されたのは、今年 40 才になる娘が小学3年生の頃の話です。

掲載された日曜の朝早く、近くに住む中学の同窓生から「おめでとう、載っているね。けど奥さん怒っていない？」と電話がありました。同級生の懸念どおり妻は 30 年前の記憶がよみがえったのか一日中不機嫌でした。掲載料（図

書券 1500 円）はネタ代として没収され、その日の夕食は私持ちの夕食となりました。

退職以来、三好市と富士市の二拠点生活を送っています。2 作目は孫娘が富士市の家に遊びに来たときの話です。こちらの掲載料は孫娘に送りました。息子から「おしりたんてい」の絵本を買ったとの連絡がありました。

投書コーナー	
<p>4 番目くらいに「タカクラさん」と呼ばれた。娘が「ハイ」と返事。でも娘は「キド」、私は「ヨシダ」。はて？ 娘の顔を見る。「いつも好きな名前を書くんよ」。どうやら私が高倉健さんのファンなので「タカクラ」にしたらしい。今度順番待ちの記名をする機会があったら「ケン」と書こう。「健さん」と呼ばれたい。 (福岡県 吉田勝子さん・79歳)</p>	<p>一緒に散歩に出かけた際、孫に「見てごらん、今朝も富士山が見えているよ」と言うと、「あっ、本当だ！ 富士くん、おはよう」。どうやら孫は、富士山ではなく富士さんだと思っていたらしい。 (静岡県 久保道夫さん・71歳)</p>
<p>富士くん 今年 4 歳になる孫娘は横浜に住んでいる。じいじ、ばあばが住んでいる富士市にも遊びに来る。先日、よく晴れた朝に</p>	
<p>ツルツル 母親に何でもかんでもやり方を聞いて</p>	
<p>投稿募集 住所、氏名、年齢、電話 2426 番号を明記し、郵便は〒100-8051 毎 日新聞日曜版編集部「みんな集合」 係、メールは nichiy-co.jp、ファクスは 03-3212- 2511 まで</p>	

農作業の傍ら三好市の英会話教室にも数年前から通っています。中学校に派遣された主にアメリカ人の ALT（英語の補助教員）が先生となり、週一で英会話を教えてくれます。レッスンの中身は最近の出来事を受講者（私を含めほとんど高齢者）がしゃべり、先生が質問する形式で進みます。毎週ストーリー性のある話を用意して出席します。

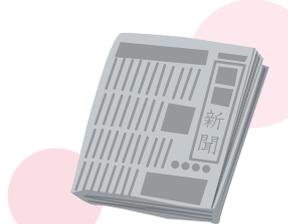
前日に行った床屋でちょっといい気分になった話をしたところ好評でしたので、日本語にして投稿しました。

<p>2 文字が頭をよぎるも、少しだけ彼女の期待に届いてしまう鈍い主なのである。 (静岡県 太田あき子さん・44歳)</p>	<p>います。さっぱりした後、いつもレジデ「60歳以上ですか？」と聞かれ、そんなに若く見られているのだとちょっといい気分が店を後にしていました。しかし先週はレジ係が若い女性で、年齢を聞かれることなくシニア割の料金でした。ちょっとがっかりして、てんまつを妻に話すと「その子はきっと正直なのよ」。 (徳島県 久保道夫さん・72歳)</p>
<p>隣の散髪店に正直者？ アメリカのことわざ「(前略) 一生幸せでいたいなら正直であれ」というのがあるそうです。さて、散髪はシニア割引がある隣の理髪店をいつも利用して</p>	

「一日だけ幸せになりたいのなら床屋に行きなさい。一週間なら車を買いなさい。家を建てたら一ヶ月幸せにいられます。一年間幸せでいたいのなら結婚しなさい。そして一生幸せ者になりたいなら正直者でいなさい。」というのが、投稿欄で省略されたアメリカのことわざです。

独身の ALT の先生から、「Only 1 year in marriage?」と質問があったので「No, only 3 months in my case.」と答えました。

みんな集合	
投書コーナー	
<p>サプリを断る 定期購入しているサプリの効果がないので契約を断りたい時、私は義理の娘のふりをして電話をします。「母は先月死んだので、もう必要ないので断ります」と。相手の人は何も言わず「分かりました」。この方法で、今まで3回断りました。私、3回も死んでいます。 (大分県 渡辺睦子さん・75歳)</p>	<p>受け取った母親(妻)だが、顔色が途中で変わった。「～はまるで～のようだ」の文を作りなさいとの問題に、娘の答えは「私の母は怒ると、まるでオニのようだ」。大きな二重丸のそばに「本当？」との担任のコメント。それ以来、妻が娘をしかる回数が増ったような。その娘の子どもも今年小3になる。娘に覚えているか聞いてみたい気がする。 (徳島県 久保道夫さん・70歳)</p>
<p>満点にも複雑 30年前の話。娘が小3の頃、満点の国語のテストを持って帰ってきた。笑顔で</p>	<p>ウルトラの「母！」 3 歳になった次男。将来は「ウルトラマンになる！」そうだ。私を呼ぶ時、普</p>



【自分史の記録 Part2】

ある坊主親父の QC 伝言板

～現役の後輩達へ：

PDCAサイクルを廻し続けよう！～



第4期 機械 古鍛治 義 広

プロローグ！

私はコマツでの会社人生 45 年の大半を TQM (品質保証・品質管理・ISO) に携わってきた。これらの仕事と趣味 (登山・お遍路) の経験から大切な事を学んだ。

それは、「PDCA サイクルを廻し続けること!」。

PDCA を自分のものにした人は、どの様な会社・職種であっても、しっかりとした成果を上げ続けることができる。会社に必要な人材は PDCA を回し続けられる人ではないかと思う。

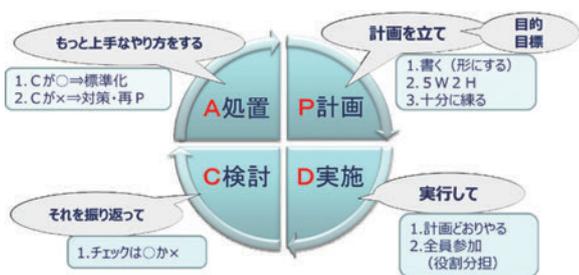
Plan → Do → Check → Action の各ステップ毎のポイントを以降にまとめてみた。現役後輩達の行動の参考にして欲しい。

【後輩達に伝えたいこと】

- 第 1 章. 必ず結果を出す “PDCA サイクル” !
- 第 2 章. “Plan” は、目指すべきゴールの設定!
- 第 3 章. “Do” は、ためらわずにやれ!
- 第 4 章. “Check” は、言い放しにしないこと!
- 第 5 章. “Action” は、C の結果から次の計画につなげる!

第 1 章. 必ず結果を出す “PDCA サイクル” !

「計画を立てて、実行して、それを振り返って、もっと上手なやり方をする」これは、全ての仕事の基本であり、マネジメントの基本です。どの様な立場の人にも大切なことです。確実に廻せば、問題は自然に解決する。しかし、使いこなせていない。



悠久同窓会誌第 57 号で、「43 日間の四国八十八ヶ所お遍路通し打ち結願 (けちがん) 報告」をした。今回 Part2 として「ある坊主親父の QC 伝言板」のタイトルで、私が歩んできた QC の世界での想いの一部をここに書き記す。

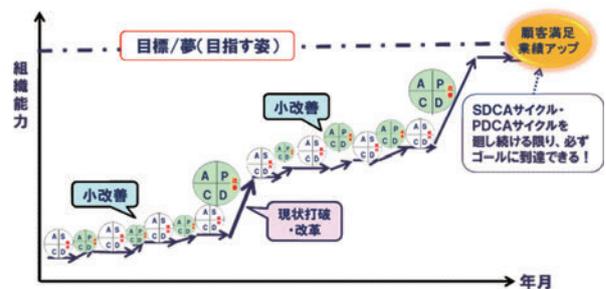
現役で活躍・苦勞されている後輩の皆さんの参考となればありがたい。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏……………

SDCA・PDCA サイクルを廻し続けること！

SDCA・PDCA サイクルを廻し続けることにより、個人としての「現場力」が身につく、企業としての「組織能力」向上にも繋がります。一つ一つの改善、小さな改善の積み上げこそが大切。

小さな改善もできない人・職場・会社が、改革なんてできるはずがない。



PDCA = 仮説と検証のサイクルとも言われる！

ビジネスの世界では、問題・課題自体も自分で仮説を立てて探し出さなければならない。

物事に取り組む前に、まず自分で仮説を立て、それを実証・検証しながら改善や軌道修正しながら成果を出していきます。

このことから、「仮説と検証のサイクル」と呼ばれる。

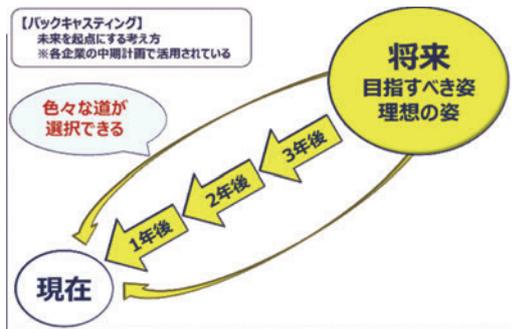
4つの仮説



第2章. “Plan” は、目指すべきゴールの設定！

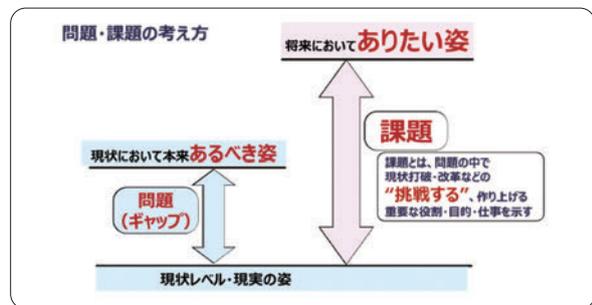
□ 未来・理想の姿から逆算する！

バックキャストとは、**未来から逆算してアイデアや目標を考える手法**のことです。例えば、3年後のビジョンを描いたら、そこから逆算して2年後にどうあるべきか？1年後にはどうあるべきかと現在に向けて思考を近づけていきます。



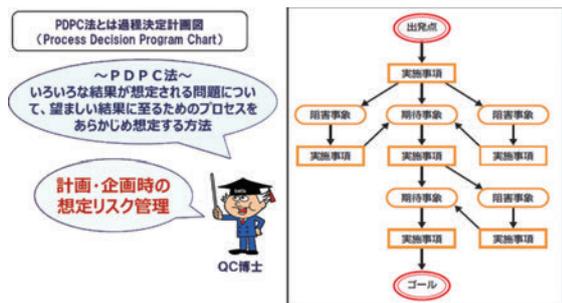
□ 将来において「ありたい姿」に挑戦しよう！

QCの世界では、問題・課題を下記のように定義しています。身の回りで次々と発生する問題に迅速に対応するのは必須ですが、それ以上に大切なことは、**将来においてのありたい姿を明確にし、そこに挑戦すること**です。



□ 企画時「PDPC法」の考え方を忘れるな！

綿密に計画を立てても成果が出ないこともある。PDCA サイクルにおける**失敗は、「活かせば財産！」**立派な成果であると考えよう。しかし、計画時には、**うまくいかなかったときにどうするかまで考えよう！**これが、**PDPC法の考え方**であり活用して欲しい。



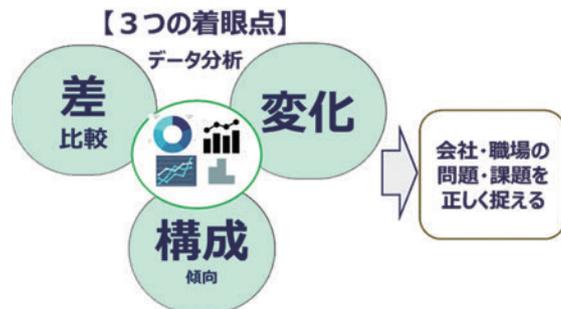
□ BSCの4つの視点を意識せよ！

仕事・ビジネスを評価する視点として、**「お金・お客様・プロセス・学習成長の4つの視点」**を意識しよう。これは、BSC (バランスト・スコア・カード) と呼ばれる重要な考え方。



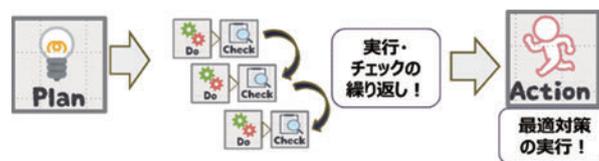
□ “3つの着眼点”で職場の課題分析を！

データには、概ね**「差(比較)」「変化」「構成」の3つの特徴**が隠れています。データ分析を行う際は、「この3つの特徴のどれかを見つけるぞ！」という姿勢で臨むと、データの特徴が見え、職場や組織の課題がクリアになります。



第3章. “Do” では、ためらわずやれ！

□ 計画を立てたら、ためらわず実行！



口だけ行動しない (Only talking, no action) ❌

考えているだけ (Just thinking)

PDCAがうまく回らない原因は、実行力の弱さ。

- ・失敗したら...
- ・責任を問われたくない...不安や心配の克服を！

実行をためらう人には、叱責よりも**「背中を押す言葉」**をかけてあげる

D すぐやる！必ずやる！出来るまでやる！

仕事の三原則「すぐやる・必ずやる・出来るまでやる」。自分自身を成長させていくことにも、仕事で成果をあげるためにも共通する普遍的な原則です。

成果は直ぐには出ない。
最後に笑うのは、やり続ける人

どんな仕事でも

- ◆「明日やろう」「そのうちやろう」ではなく、「すぐやろう！」
- ◆そして、その仕事を「情熱と熱意」をもってやろう！
- ◆粘り強く、執念をもって「出来るまで」やろう！

「情熱・熱意・執念」
やる人も、やらせる人も！

D 本当に成果を上げるなら、改善案は3つ以上出せ！

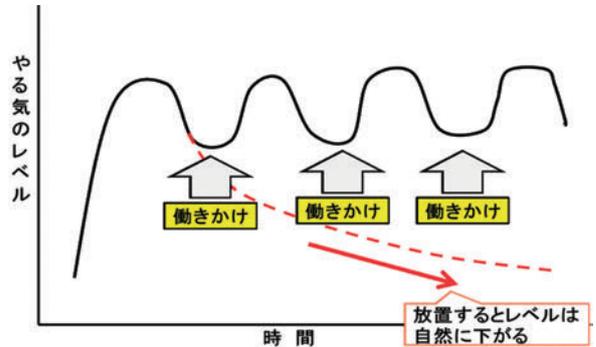
目的を達成する手段はいくつもあるはず。案は比較したり、修正したり、組み合わせたりすることで良い案に変貌できる。成果は、プラス面だけでなく、マイナス面（背反現象・新たなリスク・弱点）が発生しないか、きちんと評価しなければならない。

「良い」だけの改善案はない。弱点も検討せよ

改善案は3つ以上	方式案	メリット	デメリット	評価	実行	継続
				リスク	コスト	効果
改善案は3つ以上	1案：一部ユニット方式 ※「A」のみの改善 ※異なるユニットは別れて改善	最も短時間で実施可能 ※実施に際し「要」で確認が必要	短点・中点発生が発生 ※「A」以外の改善が発生	○	○	△
	2案：積層方式 ※積層して改善 ※積層して改善	※積層して改善可能 ※積層して改善可能 ※積層して改善可能	※積層して改善可能 ※積層して改善可能 ※積層して改善可能	○	△	△
	3案：完全ユニット方式 ※ユニットで改善	※積層して改善可能 ※積層して改善可能 ※積層して改善可能	※積層して改善可能 ※積層して改善可能 ※積層して改善可能	○	○	○

C 定期フォローを忘れるな！

継続的なやる気（モチベーション）維持には定期的なフォローは欠かせない。人は本来怠け者と思え！



C 品質の弱い会社、品質の強い会社。違いは、本気・やる気・根気。

トップの「本気」、ミドルの「やる気」、ボトムの「根気」。トップ・ミドルの皆さんは、三位一体の会社づくりとフォローを！

トップが「本気」、ミドルが「やる気」にならないと、社員がいくら頑張っても、結局うまくいかない。

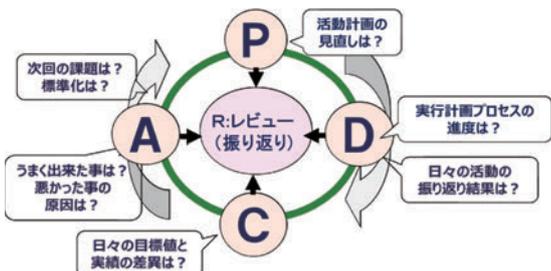


第4章. “Check” は、「言いつ放し、やりっ放し」にしないこと！

C PDCAのステップ毎のレビューを忘れるな！

C「チェックする」とは、「言いつ放し、やりっ放し」にしないこと。

計画を立て、実行することは、結果に対して責任をもつことであり、「結果を見届けること」。そのため、活動の各プロセスで、常に振り返りながら、悪かった点を改善するといった「PDCA+R」を根気よく回していくことが大切です。



C 情報は隠さない！オープンにしていますか！

人を動かす、動いてもらうには、情報を隠さず開示していった方がよい。情報を共有し合うことで、初めて信頼関係が生まれる。信頼できる部下を育てる一番の方法でもある。

Bad
情報

Good
情報

◆京セラ創業者の稲盛和夫さん
従業員との信頼関係を築くために「数字に関してガラス張り」に。
会社の状況を包み隠さず「良い情報も悪い情報」もオープンに！

◆コマツ元社長の大橋徹二さん
「S・L・Q・D・C」が大事だ。報告は常にこの順番。
悪い内容から報告すること！
(安全衛生⇒コンプライアンス⇒品質⇒納期⇒コスト)
Safety Law Quality Delivery Cost

Q 社員が喋れる雰囲気づくりをしていますか！

グーグルプロジェクトチームが4年にも及ぶ社内調査・研究の結果、効果の出せるチームとそうでないチームの差はたった一つ、「心理的安全性 (Psychological safety)」が確保できているか否かだと。心理的安全性とは、「なんでもないちょっとしたことを**無邪気にしゃべれる安心感**」のこと。

心理的安全性：ハーバードのエドモンドソン教授が提唱。Googleの調査・研究により世の中で注目を浴びた。最近では、「組織活性化」「コンプライアンス遵守」の面で不可欠な存在と位置づけられている。

「チームの心理的安全性」を構成する4つの因子]



(出典) 石井達介『心理的安全性のつくりかた』(日本能率協会マネジメントセンター) より

Q Z世代に響く「ものの言い方」！

私たち世代とZ世代と呼ばれる若手メンバーとの間には、同じ言葉であっても、その受け取り方や感じ方に大きな違いがあります。シンプルで誰でもすぐに使える「ものの言い方・手順」を紹介します。Z世代の人と一緒に考え、作り上げたたった3つのワードです。

(出典) 藤原慎太郎『トヨタ流 DXを支える心理的安全性と仕事のスピードアップを実現する2つのカタ』

【Z世代への伝え方の手順】

- ① **まずは、出来ている部分を「褒め」、「感謝」を伝えてから**
- ② **「本人の成長・メリット」と、**
- ③ **「考える視点や手順」を伝える。**



エピローグ！

先の読めない事態（特に新型コロナなど）に直面し多くの教訓を得ました。私たちは、今後も起こるであろう「予想もなかった事態・時代の変化」に対応できる心の準備が必要です。

デジタル化・グローバル化が急加速する時代で、不確実性が上がれば上がるほど、「そもそも今何が問題なのか？」を考える能力が重要になってきます。自ら問題・課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動しなければなりません。

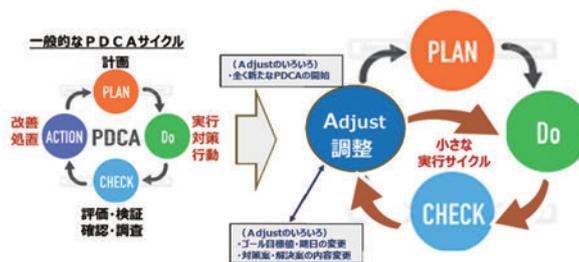
即ち、PDCAのサイクルを回すことが大切です。

現役の皆さん！基本に帰って、PDCAをもう一度じっくりと振り返ってみませんか！

第5章. “Action” は、Cの結果から、次の計画につなげる！

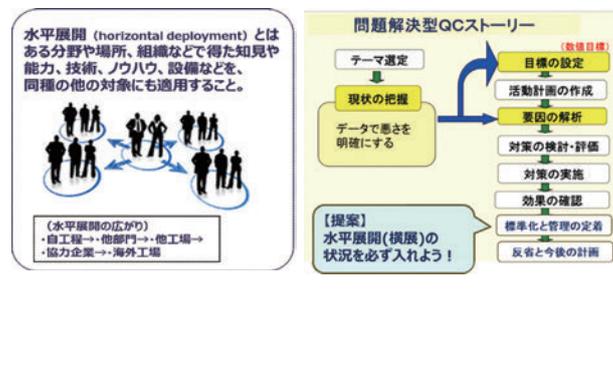
A C (評価) の結果、次をAdjust (調整) する！

PDCAの「DoとActionの違い」、どちらも「する・やる」という意味だが、「何が違う？」のでしょうか。C (評価) の結果、次をAdjust (調整) すると考えるとよい。「小さなC+A」→「小さなC+A」→「小さなC+A」と繰り返すイメージ。



A 成果を組織全体に広げる！～水平展開～

成果を全体に広げる。横展開・水平展開をすること。良い改善をした時、「良かったね」で終わらず、必ず他の工程や他部署に展開する。



- VUCAとは
- Volatility (変動性)
 - Uncertainty (不確実性)
 - Complexity (複雑性)
 - Ambiguity (曖昧性)



4日目：ポントルソン - (N137号、60km) - レネ -
[E3/N137 via ナント、(470km)] --- ボルドー

さて、今回のフランス国土一周での実走行距離はメーター値で4400km、フランス9泊、南ドイツ1泊でしたが、今号の目的地ボルドーでの2泊以外はすべて「1泊して、次の街へ」という行程をとった。すなわち、朝、次の町を目指し、その日の晩に到着という、初めての国でいきなり一周するという日程については、今から思えば“無謀”とも思える様だが。ただ、当時の駐在生活に慣れて3年目という体験を経て来ていた頃、それはそれでごく自然の意気込み（考え方）ではなかったか・・・。

また、若さも加味合わさったのか・・・。なお、ここで、なぜボルドーだけが二泊としたかは町の規模が大きい事で、見ものも多いであろう、又ワインの産地でもあり、「せっかくなので良く獲れた年の何本かは手に入れたいな...」というのもありました。また、関連するブドウ畑サンテミリオン地区にも出かけてみたい、収穫の現地、ブドウ畑の片隅でその収穫した新作なども味わってみたいな、ってこと等などがありました。



図1. ポントルソンから雨の中をレネへとひた走る

ポントルソンの朝は雨であり、これから500数十kmのボルドーへ向かうにあたり、距離はあるわ、この大粒の雨だわと、環境は決して良いとは言えないが、巡航速度160km/hrを保ちながら一路レネの街目指してハンドルを切った。

ただ、一日目、出発の我が町デュッセルドルフから宿泊の

ルーアンへの距離は別として630kmとなりましたね、なお、4日目のボルドーへの道は、当時の（地図に基づいた）計算では350km～400km試算しての走行でした、その意味するところは、「きょうは大変だなあ」であり、朝食時、窓の外は雨、、「さあ、こころして」と覚悟を決めてハンドルを握ったものでした。

「今夜もちゃんと着かねば・・・」、ですから、「巡航速度160km/hを堅持しつつかつ冷静に走る、」で、冬装備のタイヤで何の不安もなくスタート、フロントガラスに打つ雨は初日後半A28をルーアン目指して南下したあの街道筋の夕刻とほぼ似た風情も、雨粒は一回り大きめでかつ一足早い雨脚でありました。

■ レネの街で・・・

そうそう、一年ほど前にフランスの代理店技術スタッフを始めとして欧州各地から循環器診断システムを対象とする技術研修会を開催しており、レネから来た友人が、ノルマンディーに来たら是非レネの町も立ち寄ってくれ、と話を受けていた。改めて地図で確認するとポントルソンから、ボルドーまでの行程の10%位行ったところにレネの町がある、何しろ「どこにどんな見ものがある」、ってことを十分知っているわけではないので、「寄ってみてくれ」、と推奨されれば行かない手はない。



図2. レネの街でサンタさんに遭った

レネの街中でサンタさんに遭い、サンタさんもこんなところに日本人の子供がなぜ？ というような感じで尋ねてきた模様。

レネの街へ来てくれと言ったフランスの友人が私に声をかけたことがこうして、レネの街でサンタさんに遭うことに繋がっていったが、少なくとも子供達には大きなインパクトをもらった様でありました。

今改めて確認すると前日宿泊のポントルソンから60km、日本での現自宅から高槻市くらいの距離である。やおら、レネの町に立ち寄るべく前夜の宿泊地ポントルソンの南出口からルートE3(N137)に乗り一路レネの街中心へと向かった。ただ、今夜の目的地はボルドーなので、その辺りへ気持ちを置きながらのハンドルさばきとなった。



図3. 4日目のポントルソン～ポルドー間は約530km

「レネってのはどんな街なのだろうか・・・」
 さて、いつもながらですが、どの街を訪問するにもまず街中心をターゲットに尋ね行きます、その表示は「Center」であり、案内板に従って進みますと、必ず石畳のマルクト広場*、に到ります。特にパーキング料を集めに来るおじさんも駐在せず、。その観点からは欧州どの街を訪れてもビジター達にとっては「尋ね易い」街が多いです。なんでだろうと考えてみますと、地元の方々にとっては「来てくれてありがとう」なのでしょう。



図4. レネの街、朝のケーキ屋さん

クリスマスケーキを買いに来るお客さんで賑わうケーキ屋さん、我がファミリーも思わずお店に入りました。

この“レネ”のまちなみ例にたがわず案内板にしたがって進むと、石畳が成す、まさにマルクト広場へと案内してくれたものでした。

画像で見られる様に、マルクト広場を散策しているとサンタさんに遭遇しました。サンタさんもこの時期、(ノルマンディーに程近いブルターニュの) この街に日本人の子供が歩いているのに興味を持った様子で、我が子達に話しかけていました。

次号へ続く

*注. [マルクト広場]
 「市場 (Markt)」を意味する言葉が名前についた都市の中心にある広場のことで、市庁舎や歴史的建造物が立ち並び、かつては商業や市民の集会の場として栄え、現代でもクリスマスマーケットなどで賑わう憩いの場所です。
 (Google より)

阿南高専エンジニア育成基金

高度情報教育推進事業のご支援について

阿南高専では、運営費交付金だけでは対応できない諸課題の解決や地域の皆様との連携強化のために、令和5年度よりエンジニア育成基金の高度情報教育推進事業として、寄附金を募っています。令和8年度春には高度情報教育センター棟が竣工です。

本校は、文部科学省「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に採択されました。各情報技術を駆使して専門分野において課題解決できる人材の育成を目的とし、地元企業や高等教育機関と連携して、先進的かつ実践的な高度情報教育の実施を目指します。また、eスポーツを通してセキュリティ等のITリテラシーやコミュニケーション力等のコンピテンシーを強化し、社会の要請に応じて活躍できるエンジニアを育成します。



高度情報教育センター棟

※詳細は本校ホームページをご覧ください。
<https://www.anan-nct.ac.jp/kikin/project-kodojoho/>

税制上の優遇措置

高度情報教育推進事業へのご寄附に対しましては、税制上の優遇措置を受けることができます。

- **個人でご寄附される場合**
 所得税及び個人住民税の寄附金控除を受けることができます。詳しくは、税務署又はお住まいの市区町村の窓口にお問い合わせください。
- **法人でご寄附される場合**
 法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額を損金算入することができます。

- 【募集期間】 令和9年3月31日まで
- 【目標金額】 3,000万円
- 【寄附金額】 個人の場合 1口5,000円から
 法人の場合 1口の金額の設定はありません。

寄附申込方法

高度情報教育推進事業には、インターネットによるお申し込みと書面でのお申し込みの方法がございます。

○ インターネットによるお申し込み方法 ○

Google Formsにて必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。指定の振込用紙が必要な場合、お送りいたします。ATM・金融機関窓口（ゆうちょ銀行不可）にてお振込みをお願いします。



Google Forms

○ 書面によるお申し込み方法 ○

寄附申込書に必要事項をご記入のうえ、郵送若しくはメールにてお送りください。追って、指定の振込用紙をお送りいたしますので、金融機関窓口（ゆうちょ銀行不可）にてお振込みをお願いします。

○ メールによるお申し込み方法 ○

✉ kikaku@anan-nct.ac.jp までご連絡ください。折り返しお申し込み手続きにつきまして、ご連絡いたします。

領収書の発行

領収書の発行は、寄附金が阿南工業高等専門学校に入金された後の発行となります。なお、領収書発行の日付はお振り込みいただいた日付となります。領収書がお手元に届くまでに時間を要することとなりますが、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

寄附者芳名録について

ご寄附いただいた方のお名前は「阿南工業高等専門学校寄附者芳名録」に記し、阿南工業高等専門学校ホームページにご紹介いたします。公表を希望されない方につきましては、掲載いたしません。

よろず
伝言板

「各種証明書」の発行事務についてのお願い

卒業生の皆様が、各種資格の取得、就職試験、進学受験、海外出張等をされる場合には、ほとんどの場合、本校に在籍し、または卒業・修了したことについて、各種の証明書が必要です。(卒業・修了・成績・単位修得・調査書など) これらの証明書を速やかに発行するため、以下のことにご留意・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

1. 各種証明書の発行申請について

各種証明書の発行は、「諸証明書発行願」により、学生課教務係へ申し込んでください。

この発行願は、教務係に設置しているほか、学校のホームページからダウンロードすることができます。

2. 遠隔地からの発行申請について

県外在住など来校するのが難しい場合、下記のものをご郵送して申し込むことができます。

① 「諸証明発行願」：発行願には下記のことを記載してください。

- (ア) 必要な証明書の種類 (卒業証明書・成績証明書等)
- (イ) 必要部数
- (ウ) 使用目的・提出先
- (エ) 氏名 (卒業時の名字)

※英文証明書が必要な場合は、パスポートどおりのローマ字表記を併記してください。

- (オ) 生年月日
- (カ) 卒業・修了学科
- (キ) 卒業・修了年月

② 返信用封筒

- (ア) 郵便番号・宛先・宛名を記載してください。
- (イ) 110円切手を貼ってください。

※必要部数が多く、総重量が50g以上となる場合は、郵便料金を確認してください。

速達の場合は300円分を追加してください。

③ 身分証のコピー (運転免許証等)

3. その他

① 英文証明書や調査書の発行には、1週間～10日程度を要します。また、郵送の場合はさらに4日程度を要しますので、十分な余裕をもって申し込んでください。

② 緊急に証明書が必要な場合で直接窓口に来られるときは、事前に電話をいただけますと、お待たせせず証明書を発行できます。

※ 英文証明書・調査書・高等学校卒業程度認定試験に関する証明書は、即日発行できませんのでご了承ください。

③ 発行は無料です。郵送の場合は、郵送実費(切手)のみ必要です。

④ 証明書の氏名は、本校卒業時氏名での発行となります。

各種証明書は、皆様ご自身に関する一身上の極めて重要な意味をもった公文書ですから、発行には慎重な事務手続きを期すとともに、皆様の要望に、円滑に対応できるよう努力いたします。申し込みの際には、上記のことをご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■申請先■

〒774-0017 阿南市見能林町青木 265
阿南工業高等専門学校 学生課教務係
電話 (0884) 23 - 7133
F A X (0884) 22 - 4232

この「よろず伝言板」は「悠久」の誌上を通じて会員相互の心の絆を深めるために設けたものです。何でも結構!! ふるって御投稿下さい。

悠久第59号原稿募集

「悠久」も本号で第58号となります。

「会員だより」の原稿を集めるのに苦労していた時期もありましたが、ここ何年かはたくさんの会員の方からご寄稿いただき、充実した内容となってまいりました。

今後は、卒業生のみならず、現役学生およびその保護者も含めた幅広い読者を対象に、様々な情報を掲載できるよう、検討しております。

つきましては、次号「悠久59号」より、会員だよりは合計10ページまでとさせていただきます、**お1人様1ページ以内の内容にて原稿を作成**いただけますと幸いです。

現役学生の方からのご寄稿も歓迎いたします。ご寄稿多数の場合は、先着順で10名様までとさせていただきます。

ます。なお、掲載・編集については編集委員会にご一任ください。

こちらの都合で誠に申し訳ございませんが、ご理解・ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

■原稿送り先 〒774-0017

阿南市見能林町青木 265

阿南高専内悠久同窓会事務局

■メール送付先 dosokai@anan-nct.ac.jp

■原稿締切 2026年11月13日必着

《文字数のご参考》

A4 / 1ページ / 写真無し → 2000～2200文字程度

A4 / 1ページ / 写真2枚 → 1500～1600文字程度

阿南高専卒業生数

()内は女子数で内数 令和7年12月31日現在

卒業年度	卒業期	機械工学科 機械コース	電気電子工学科 電気コース	制御情報工学科 情報コース	土木工学科 建設システム工学科 建設コース	化学コース	合計
昭和42	1	80	38 (1)				118 (1)
43	2	79	37 (2)				116 (2)
44	3	70	31				101
45	4	67	37 (1)				104 (1)
46	5	55	36		33		124
47	6	82	39 (1)		34 (1)		155 (2)
48	7	67	36 (1)		38		141 (1)
49	8	61	34 (1)		30		125 (1)
50	9	69	32 (1)		35		136 (1)
51	10	61	36		37		134
52	11	82	40		37		159
53	12	70	31		32		133
54	13	71	40		30		141
55	14	66	38		31		135
56	15	64 (1)	38		33 (1)		135 (2)
57	16	61	35		31 (4)		127 (4)
58	17	65	37		26		128
59	18	76	34 (1)		34		144 (1)
60	19	54 (1)	37		32		123 (1)
61	20	75	36		28		139
62	21	59	40		32		131
63	22	71	40		40		151
平成元	23	72	41 (1)		43 (1)		156 (2)
2	24	75	42		32		149
3	25	78	44 (1)		38 (1)		160 (2)
4	26	74	43 (1)		31		148 (1)
5	27	42 (1)	31 (1)	32 (8)	34 (2)		139 (12)
6	28	46	48 (1)	40 (12)	28 (2)		162 (15)
7	29	29 (1)	43 (2)	41 (10)	36 (3)		149 (16)
8	30	43 (1)	37 (2)	39 (12)	45 (3)		164 (18)
9	31	37 (1)	41 (4)	38 (16)	35 (7)		151 (28)
10	32	38	41 (1)	40 (12)	42 (6)		161 (19)
11	33	33	36 (6)	33 (11)	36 (6)		138 (23)
12	34	45 (3)	37 (5)	39 (12)	39 (12)		160 (32)
13	35	34	40 (1)	37 (14)	38 (10)		149 (25)
14	36	31 (3)	38 (7)	28 (9)	32 (5)		129 (24)
15	37	39 (1)	36 (5)	31 (11)	38 (13)		144 (30)
16	38	41 (2)	43 (6)	40 (16)	39 (11)		163 (35)
17	39	38 (1)	36 (4)	40 (17)	34 (14)		148 (36)
18	40	37 (1)	43 (4)	31 (8)	28 (8)		139 (21)
19	41	36	42 (2)	29 (10)	32 (9)		139 (21)
20	42	35	45 (5)	38 (7)	37 (6)		155 (18)
21	43	35	39 (4)	38 (15)	40 (7)		152 (26)
22	44	36	38	34 (11)	27 (7)		135 (18)
23	45	42 (1)	37 (2)	34 (17)	33 (11)		146 (31)
24	46	41	44 (8)	47 (10)	34 (9)		166 (27)
25	47	47 (4)	44 (2)	41 (10)	20 (3)		152 (19)
26	48	40	39 (5)	36 (9)	29 (4)		144 (18)
27	49	45 (4)	36 (9)	42 (3)	22 (7)		145 (23)
28	50	41 (6)	40 (6)	37 (4)	30 (9)		148 (25)
29	51	42 (7)	37 (6)	41 (9)	31 (7)		151 (29)
30	52	40 (2)	24 (1)	37 (8)	23 (9)	25 (11)	149 (31)
令和元	53	40 (7)	33 (7)	33 (5)	23 (6)	24 (5)	153 (30)
2	54	32 (3)	35 (7)	38 (8)	20 (7)	24 (5)	149 (30)
3	55	40 (4)	38 (5)	38 (3)	22 (8)	21 (7)	159 (27)
4	56	36 (8)	37 (4)	36 (5)	23 (7)	20 (11)	152 (35)
5	57	39 (5)	27 (4)	36 (2)	25 (5)	28 (11)	155 (27)
6	58	35 (2)	28 (4)	42 (5)	23 (7)	26 (9)	154 (27)
合計		3,039 (70)	2,185 (142)	1,186 (309)	1,735 (238)	168 (59)	8,313 (818)

令和7年度卒業予定者(59回)

()内は女子数で内数

卒業年度	回数	創造技術工学科 機械コース	創造技術工学科 電気コース	創造技術工学科 情報コース	創造技術工学科 建設コース	創造技術工学科 化学コース	合計
令和7年度卒業予定者	59	32 (8)	40 (7)	29 (10)	22 (10)	28 (13)	151 (48)

(注) ① 平成元年度から機械工学科(2学級)を機械工学科(1学級)と制御情報工学科(1学級)に改組。② 平成5年度から土木工学科を建設システム工学科に改組。
③ 平成14年度から電気工学科を電気電子工学科に改組。④ 平成26年度から4学科を創造技術工学科1学科に統合。機械、電気、情報、建設、化学の5コース制に再編。

総会のお知らせ

2026年11月7日(土)、下記のとおり総会を開催します。ふるってご参加ください。

総会当日は、阿南高専にて「蒼阿祭 2026」を開催予定です。

総会・食事会前は是非「蒼阿祭 2026」をお楽しみください。

講演会

15:00 受付

15:30～16:30 講演会

演題：阿南高専の未来を考える（仮）

講師：BTジャパン株式会社

マネージャー 荒川太郎氏(23M)

場所：阿南工業高等専門学校 管理棟3F会議室

総会

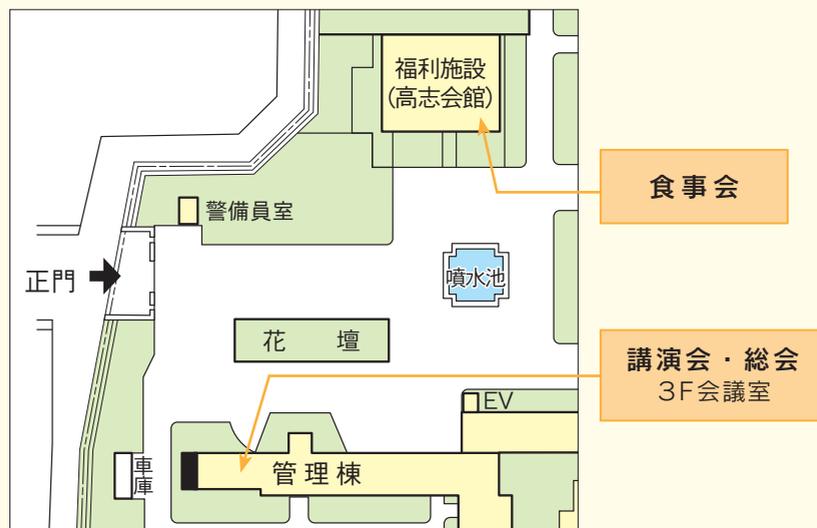
16:30～17:00 総会

17:00～ 名誉教授の先生方との合同食事会

場所：阿南工業高等専門学校 高志会館

会場案内

お車でお越しの際は蒼阿祭スタッフの誘導に従ってお車を駐車してください。



寄付金募集のお知らせ

(阿南高専悠久校友会)

悠久校友会会則第13条(本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる)の規程により寄付金を募集しております。諸経費高騰で悠久校友会の財政も苦しい折、広く御協力をお願い申し上げます。

送り先 阿南市見能林町青木 265
阿南高専内悠久校友会事務局

振込の場合 銀行振込 徳島大正銀行 阿南支店 普通
口座番号 8594442
阿南工業高等専門学校悠久校友会

※振込手数料は振込者負担でお願い致します。

事務局からのお願い

悠久校友会(同窓会)
発足60周年について

1968年3月、第1期卒業時に、校友会の前身である「悠久同窓会」が発足し、2028年3月に60周年を迎えます。

悠久校友会(同窓会)発足60周年を迎えるにあたり、何かいいアイデアがございましたら、事務局までお知らせください。

22E 中村雄一
(送り先: dosokai@anan-nct.ac.jp)